

III. 地域連携

—関西地区 FD 連絡協議会の 4 年目の活動成果—

III-1. 活動成果の概要

1. 関西地区 FD 連絡協議会 第 4 回総会

本協議会の第 4 回総会が、2011 年 5 月 21 日に京都大学百周年時計台記念館において開催された。本総会では、各ワーキング・グループから 2010 年度の活動報告および予算報告、2011 年度の活動方針および予算計画について報告があり、承認が得られた。また、会員校の組織的 FD の取り組みに関するポスターセッション「FD 活動の報告会」が実施された。本協議会設立 4 年目を迎えた今回の総会では、これまで整えてきた体制を基盤として、今後さらに大学間の連携を深めていくことが確認された。

第 4 回総会プログラム

総 会【京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール】13：00～

進 行：山成 数明（大阪大学）

開会挨拶：池田 勝彦（関西大学）

議 事

議 長：田中 每実（京都大学・代表幹事校代表）

- (1) 平成 22 年度活動報告について
- (2) 平成 23 年度活動方針について
- (3) 平成 22 年度決算について
- (4) 平成 23 年度予算について
- (5) 次期幹事校の選出について
- (6) その他

ポスターセッション「FD 活動の報告会」【同 国際交流ホール II】14：45～

活動報告【同 百周年記念ホール】16：00～

- (1) 「初任教員向けプログラム（愛称：カンジュニ）とは」
半澤 礼之（京都大学高等教育研究開発推進センター）
- (2) 「コピペ検索システム-教育の質の向上のために-」
花川 典子（阪南大学経営情報学部企業情報研究科）
- (3) 「学生アンケートの実施方法について」
八木 成和（四天王寺大学教育学部・FD 専門部会委員）

閉会挨拶：田中 每実（京都大学・代表幹事校代表）

情報交換会【同 国際交流ホール II・III】17：30～

進 行：大塚 雄作（京都大学）

第4回総会の議事録を以下に記す。

【総会議事】

1. 開会の辞

開会に先立ち、進行役の山成数明教授（大阪大学）より、本協議会規定第6条第6項による出席会員校数の要件を充たし、本日の総会が成立したことについて報告があった。池田勝彦教授（関西大学）より、開会の挨拶があった。

2. 議長紹介

山成教授より、本協議会規約第7条第3項に基づき、代表幹事校代表の田中每実教授（京都大学）が本日の総会の議長となることについて説明があった。

田中議長より、挨拶があった。

3. 議事

(1) ・ (2) 平成22年度活動報告および平成23年度活動方針について

各ワーキンググループ（WG）の責任校より以下のとおり報告があった。

①FD 情報支援 WG（報告者：京都大学 溝上慎一准教授）

溝上准教授より平成22年度活動、および平成23年度活動方針案について報告があった。

②FD 共同実施 WG（報告者：大阪大学 服部憲児准教授）

服部准教授より平成22年度活動、および平成23年度活動方針案について報告があった。

③FD 連携企画 WG（報告者：立命館大学 安岡高志教授）

安岡教授より平成22年度活動、および平成23年度活動方針案について報告があった。

④広報 WG（報告者：大阪市立大学 大久保敦教授）

大久保教授より平成22年度活動、および平成23年度活動方針案について報告があった。

⑤研究 WG（報告者：神戸大学 米谷淳教授）

米谷教授より平成22年度活動、および平成23年度活動方針案について報告があった。

以上、各 WG の活動報告および活動方針について承認された。

(3) ・ (4) 平成22年度決算および平成23年度予算について

（報告者：京都大学学務部 馬場整課長）

本協議会事務局（京都大学学務部）より、平成22年度決算案について説明があった。

会計監査役の久世雅之事務部長（近畿大学教育改革推進センター）より、平成22年度決算に関して近畿大学・大阪工業大学によって監査をおこなった結果、すべて適正であった旨報告があった。平成22年度決算について承認された。

本協議会事務局より、平成23年度予算案について説明があり、承認された。

(5) 次期幹事校・監査役の選出について

田中議長より、次期幹事校および監査役は現状を維持することについて提案があり、また、関西大学・神戸常盤大学・和歌山大学について、任期が終了するが継続を審議してもらいたい旨の提案があった。これらについて、出席者により承認された。

(以上で議事録終了)

場所を国際交流ホールⅡに写し、ポスターセッション「FDの報告会」がおこなわれた（その詳細については、[次項Ⅲ-2](#)を参照されたい）。

再び百周年記念ホールに戻り、本協議会会員校による活動報告がおこなわれた。まずはじめに半澤礼之（京都大学）より、FD 共同実施ワーキング・グループの「初任教員向けプログラム」について報告があった。次に、花川典子氏（阪南大学）より、阪南大学が独自に開発したコピペ（コピー＆ペースト）検索システムについて報告があった。最後に、八木成和氏（四天王寺大学）より、授業改善のための学生アンケートの実施方法について報告があった。

2. 組織と実施体制

本協議会の会員校数は、2012年2月10日現在で140校（119法人）である。括弧内の「法人」の表記については、同一法人組織である大学と短期大学（部）が単一の機関として入会していることを示す。昨年2010年2月10日時点では、133校（114法人）であり、会員校数は1年間で7校（5法人）の増加となる。会員校リストを表1に示す（ただし、表1は2012年1月18日現在）。

本協議会の組織図を図1に示す。本協議会の組織体制は、代表幹事校1校、常任幹事校5校、幹事校11校、監査役2校で構成されている（表2）。

本協議会の活動を推進するため、5つのWGとして「FD情報支援WG」「FD共同実施WG」「FD連携企画WG」「広報WG」「研究WG」が設置されている。これらWGの活動については、[本書Ⅲ-3](#)以降で詳述されているのでそちらを参照いただきたい。なお、各WGには、円滑な運営のために、数校の幹事校によって構成される「部」が設置されている（表3）。部の構成校については設立当初より変化はない。

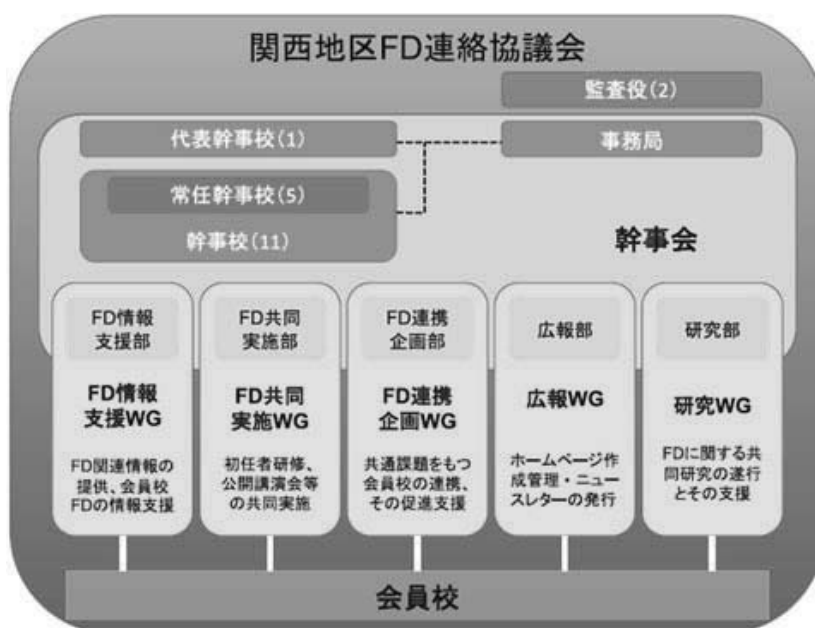


図1 関西地区FD連絡協議会の組織図

表 1 会員校名リスト 2012 年 1 月 18 日現在、140 校（119 法人）

藍野大学、芦屋女子短期大学、池坊短期大学、追手門学院大学、大阪大学、大阪青山大学、大阪医科大学、大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部*、大阪観光大学、大阪教育大学、大阪キリスト教短期大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大学、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪歯科大学、大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部*、大阪商業大学、大阪女学院大学、大阪市立大学、大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学*、大阪体育大学、大阪電気通信大学、大阪人間科学大学・大阪薫英女子短期大学*、大阪府立大学、大阪保健医療大学、大阪薬科大学、大谷大学・大谷大学短期大学部*、華頂短期大学、関西大学、関西医科大学、関西医療大学、関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部、関西看護医療大学、関西国際大学、関西福祉科学大学・関西女子短期大学*、関西学院大学、畿央大学、京都大学、京都医療科学大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学*、京都学園大学、京都教育大学、京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部*、京都産業大学、京都女子大学・京都女子大学短期大学部、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学、京都文教大学・京都文教短期大学*、京都薬科大学、近畿大学、甲子園大学・甲子園短期大学*、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学・神戸女子短期大学*、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、神戸山手大学・神戸山手短期大学*、堺女子短期大学、滋賀大学、滋賀医科大学、滋賀県立大学、滋賀短期大学、四條畷学園大学・四條畷学園短期大学部、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部*、夙川学院 短期大学、聖泉大学、聖母女学院短期大学、聖和短期大学、摂南大学、相愛大学、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学、同志社女子大学、東洋食品工業短期大学、常盤会学園大学、長浜バイオ大学、奈良大学、奈良教育大学、奈良産業大学、奈良女子大学、奈良文化 女子短期大学、羽衣国際大学、花園大学、阪南大学、東大阪大学・東大阪大学短期大学部*、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部*、びわこ成蹊スポーツ大学、佛教大学、平安女学院大学、湊川短期大学、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部*、桃山学院大学、森ノ宮医療大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部*、流通科学大学、和歌山大学、和歌山県立医科大学、和歌山信愛女子短期大学

*同一法人組織である大学と短期大学（部）が、単一の機関として入会

表 2 関西地区 FD 連絡協議会の組織体制

代表幹事校（任期4年）	京都大学
事務局	京都大学
常任幹事校（任期4年）	大阪大学 大阪市立大学 神戸大学 同志社大学 立命館大学
幹事校（任期4年）	大阪府立大学 関西大学* 関西学院大学 神戸常盤大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 和歌山大学*
監査役（任期2年）	大阪工業大学 近畿大学

* は規約施行の最初の特例措置として、3年任期の幹事校。

表 3 関西地区 FD 連絡協議会の 5 つの部

FD 情報支援部	同志社大学* 大阪府立大学 京都大学
FD 共同実施部	大阪大学* 関西学院大学 京都大学
FD 連携企画部	立命館大学* 関西大学 神戸常盤大学 京都大学
広 報 部	大阪市立大学* 和歌山大学 京都大学
研 究 部	神戸大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 京都大学

*は WG の責任校。各部に、代表幹事校（京都大学）が連絡担当として加わる

3. 幹事校会議（2011 年度第 1 回、通算第 5 回）

2011年度におこなわれた幹事校会議の議事および資料について以下に挙げる。議事次第および○印を付した資料は、本節資料として示す。幹事校メーリングリストを利用した回議については省略する。

日 時：平成 23 年 4 月 27 日（水）14：00～

場 所：京都大学本部棟大会議室（本部棟 5 階）

議 題

1. 平成 22 年度活動報告案および平成 23 年度活動方針案について
2. 平成 22 年度決算案および平成 23 年度予算案について
3. 次期幹事校の選出について
4. その他

（配付資料）

- 資料-1 関西地区FD連絡協議会幹事会（第5回）出席者名簿（本節資料 1）
- 資料-2 平成22年度関西地区FD連絡協議会事業報告〔事務局関連〕（本節資料 2）
- 資料-3 関西地区FD連絡協議会会員校一覧・大学連絡先（平成23年4月1日現在）
- 資料-4 関西地区FD連絡協議会幹事会（第4回）議事録（案）－平成22年4月9日開催－
- 資料-5 FD情報支援WG活動報告・活動方針案（本節資料 3）
- 資料-6 FD共同実施WG活動報告・活動方針案（本節資料 4）
- 資料-7 FD連携企画WG活動報告・活動方針案（本節資料 5）
- 資料-8 広報WG活動報告・活動方針案（本節資料 6）
- 資料-9 研究WG活動報告・活動方針案（本節資料 7）
- 資料-10 平成21年度関西地区FD連絡協議会決算書（案）
- 資料-11 平成22年度関西地区FD連絡協議会予算書（案）
- 資料-12 関西地区FD連絡協議会会費取扱要領
- 資料-13 関西地区FD連絡協議会主催・共催事業に係る謝金等支給基準（案）
- 資料-14 FD活動の報告会ポスター発表校一覧
- 資料-15 関西地区FD連絡協議会第4回総会プログラム（案）
- 資料-16 関西地区FD連絡協議会第4回総会『当日の手順』（案）

（田川 千尋）

関西地区 F D 連絡協議会幹事会（第 5 回）出席者名簿

平成23年4月27日

幹事校名	幹事会出席者				備考
	部署名	役職	職種	氏名	
大 阪 大 学	大 学 教 育 実 践 セ ン タ ー		教 授	山 成 教 明	常任幹事校
大 阪 市 立 大 学	大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー	副 所 長	教 授	大 久 保 敦	常任幹事校
大 阪 府 立 大 学	高 等 教 育 推 進 機 構	機 構 長	教 授	高 橋 哲 也	
〃	〃	教育推進課長		柳 嘉 夫	
関 西 大 学	教 育 開 発 支 援 セ ン タ ー	教 育 開 発 支 援 セ ン タ ー 長	教 授	池 田 勝 彦	
〃	授 業 支 援 グ ル ー プ	グ ル ー プ 長		萩 原 恒 夫	
関 西 学 院 大 学	総合政策学部	高等教育推進 セ ン タ ー 長	教 授	久 保 田 哲 夫	
神 戸 大 学	大 学 教 育 推 進 機 構	大 学 教 育 推 進 部 副 部 長	教 授	米 谷 淳	常任幹事校
〃	〃	大学教育推進 支援研究推進室長	教 授	山 内 乾 史	常任幹事校
神 戸 常 盤 大 学	保健科学部		講 師	黒 野 利 佐 子	
同 志 社 大 学	教 育 開 発 セ ン タ ー	教 育 開 発 セ ン タ ー 所 長	教 授	勝 山 貴 之	常任幹事校
立 命 館 大 学	教 育 開 発 推 進 機 構	機 構 長 補 佐	教 授	沖 裕 貴	常任幹事校
〃	教 育 開 発 支 援 課	課 長		佐 々 木 浩 二	
龍 谷 大 学 ・ 龍 谷 大 学 短 期 大 学 部	大 学 教 育 開 発 セ ン タ ー	セ ン タ ー 長		長 谷 川 岳 史	
〃	教 学 企 画 部	課 長		河 村 由 紀 彦	
和 歌 山 大 学	経 済 学 部		准 教 授	阿 部 秀 二 郎	
京 都 大 学	高 等 教 育 研 究 開 発 推 進 セ ン タ ー	セ ン タ ー 長	教 授	田 中 毎 実	議長校(代表幹事校)
〃	〃		教 授	大 塚 雄 作	
〃	〃		教 授	松 下 佳 代	
〃	〃		准 教 授	溝 上 慎 一	
〃	〃		准 教 授	田 口 真 奈	
〃	〃		准 教 授	酒 井 博 之	
〃	〃		准 教 授	及 川 恵	
〃	学 務 部	教 育 推 進 担 当 部 長		中 崎 明	

■平成22年度関西地区FD連絡協議会事業報告〔事務局関連〕

年月日	会議等	内容	備考
22.4.9	幹事会	関西地区FD連絡協議会幹事会(第4回)開催 ①平成21年度活動報告について ②平成22年度活動方針案について ③平成21年度決算案について ④平成22年度予算案について ⑤次期幹事校・監査役の選出について ⑥その他	会場: 京都大学本部棟大会議室 ◆平成21年度活動報告案・平成22年度活動方針案の決定 ◆平成21年度予算案の決定 ◆平成21年度決算案の決定 会計監査は監査校(大阪工業大学、近畿大学)により実施のうえ、総会に提出する旨了承 ◆幹事校、監査役の継続を決定 ◆会費取扱要領の一部改正 ◆総会におけるポスター発表の発表校17校およびピアレビュー担当校34校について了承
22.4.13	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申し込みについて	◆新規入会: 東洋食品工業短期大学
22.4.15	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会主催 大学教育とその問題点「高等教育の意義と解決するべき問題点」の共催依頼について	◆共催: 関西大学
22.4.24	総会	関西地区FD連絡協議会第3回総会開催 ①平成21年度活動報告について ②平成22年度活動方針案について ③平成21年度決算案について ④平成22年度予算案について ⑤次期幹事校・監査役の選出について ⑥その他	会場: 京都大学時計台記念館国際交流ホール 参加会員校: 59校 総会出席者: 111名 ①②活動報告(ワーキンググループ) FD情報支援WG: 高橋哲也教授(大阪府立大学) FD共同実施WG: 山成和数明教授(大阪大学) FD連携企画WG: 安岡高志教授(立命館大学) 広報WG: 矢野裕俊(大阪市立大学) 研究WG: 米谷淳教授(神戸大学) ③平成21年度決算案の承認 会計監査は幹事校(大阪工業大学、近畿大学)により実施された旨報告 ④平成22年度予算案の承認 ⑤次期幹事校、監査役は現状を維持することについて承認された
22.5.6	(全会員校)	関西地区FD連絡協議会会費の納入について(お願い)	
22.6.1	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	協賛: 京都大学
22.6.22	幹事会【報告】	関西地区FD連絡協議会(大学/短期大学(部)併設校)一括取り扱い申し込みについて(報告)	◆短期大学との一校化: 東大阪大学・東大阪大学短期大学部
22.7.9	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	協賛: 京都大学
22.8.6	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会新規入会申込について	◆新規入会: 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部、湊川短期大学
22.11.8	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会主催ワークショップの開催について	
22.11.9	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	協賛: 京都大学
22.11.12	幹事校【回議】	第4回総会における加盟校のFD活動報告会の開催依頼について	協賛: 京都大学
22.11.15	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	協賛: 京都大学
22.12.3	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	協賛: 関西大学
22.12.8	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	協賛: 龍谷大学
22.12.21	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会主催ワークショップの開催について	
23.2.9	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について(回議)	主催: 京都大学
23.3.4	幹事校【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	主催: 大阪大学
23.3.22	幹事会	関西地区FD連絡協議会幹事会(第5回)開催のご案内	会場: 京都大学本部棟大会議室 ◆平成22年度活動報告案について ◆平成23年度活動方針案について ◆平成22年度決算案について ◆平成23年度予算案について ◆次期幹事校の選出について ◆その他

FD情報支援WG活動報告・来年度の活動方針案

勝山貴之（同志社大学）、高橋哲也（大阪府立大学）、溝上慎一（京都大学）

1. 2010 年度の活動と反省

□ 講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する情報支援の活動

・利用実績について 2009 年度 15 件だった利用実績が、2010 年度は 7 件へと半減した（表参照）。減少の理由は定かではないが、とくに後期の利用率が低調である。今年度はもう少し利用されることを期待したい。

・課題 利用実績（表）を見てわかるように、広義の FD で情報提供を求められるケースが多く、相談内容が多様である。また、多少は人柄や人物的な印象・評価も考慮して紹介をしなければならないことを含めると、情報支援 WG でもっている情報量は決して多いとは言えない。利用者のニーズにできるだけ応えていくためにも、FD 関連のさまざまなテーマにもとづいた専門家・関係者の情報を日常的に収集していくことが求められる。予算的・時間的なものも含めて、この点最大の課題である。

・留意点 これまで同様、できるだけ関西 FD の参加校の相互貢献、相互情報交換となるような情報支援をおこなう。

利用実績

1	0412-2010	大阪医科大学	医学部で教養教育を考える導入となる講演
2	0518-2010	関西福祉科学大学・関西女子短期大学	GPA 制度の説明、大学と短大併設私学で実施されている「GPA の活用事例」の紹介
3	0611-2010	京都造形芸術大学	3 つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）について
4	0715-2010	大阪商業大学	パワーポイントの効果的な使い方について
5	0813-2010	和歌山信愛女子短期大学	FD はなぜ必要なのか？
6	1001-2010	京都文教短期大学	短期大学の初年次教育
7	1101-2010	大阪商業大学	中小規模の私学における FD の在り方・必要性

□ 広報について

年度始めの総会、年 2 回発行の『ニューズレター』、関西 FD ウェブサイトで、FD 情報支援の活動を紹介している。引き続き、このかたちで広報の充実に努めていきたい。

2. 2011 年度の活動方針

基本的に、講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する情報支援に関するこれまでの活動を継続していくが、ホームページでの情報提供の強化、他のワーキンググループとの連携等を行い、より効果的な情報支援を行っていく。また、情報提供に関するルールが厳しいかとも考え、若干下記の点を修正することとした。

情報提供に関するルール作り（2011 年 4 月 1 日改訂）

- ~~(1) 上記の推薦について、関西 FD は責任をもちません。依頼者は上記の情報を参考にして、講師の所属する大学、講師の活動を HP や著書等で簡単にでも調べ、最後の依頼には自己責任をもっておこなってください。~~
- (2) 講演内容、結果についても、関西 FD は責任をもちません。
- (3) 推薦した先生に依頼をされるときに、「関西地区 FD 連絡協議会に相談をした」「候補者の一人としてお名前が挙がった」とお話されるのはかまいません。
- (4) 推薦講師のメール等は個人情報ですので、教えて差し上げられません。依頼に関しては大学の代表電話等を調べてご依頼ください。

*下線部は修正箇所

以上

FD 共同実施 WG 活動報告・活動方針案

1. FD 共同実施 WG の目的と組織体制

FD 共同実施 WG は、初任者研修の企画立案をはじめ、会員校が共同で実施する活動を行う。FD 共同実施 WG2010 は、大阪大学(常任幹事校)、関西学院大学(幹事校)、京都大学(代表幹事校)(以上 FD 共同実施部)、大阪歯科大学、大阪成蹊短期大学、大阪樟蔭女子大学、関西看護医療大学、畿央大学、京都文教大学、京都文教短期大学、神戸大学、滋賀県立大学、夙川学院短期大学、びわこ成蹊スポーツ大学、平安女学院大学、立命館大学、龍谷大学、和歌山大学(50 音順)で構成される。

2. 2010 年度の活動報告

2-1. 各大学における初任者研修の相互参観と検討会

初任者研修共同実施のプログラム開発のために、様々な大学で行われている初任者研修に参加し、その後、研究会という形で各大学の初任者研修の検討会を行った。研究会は大阪大学、関西学院大学、京都大学で開催された。また、滋賀県立大学も FD 研修会「授業の基本」を公開とし、共同実施 WG の参加者を参加可能とした。ここでは、2011 年度の共同実施プログラム開発も含めた議論が行われた大阪大学、関西学院大学、京都大学での研究会の概要について示す。

第 1 回研究会：2010 年 3 月 25 日 大阪大学

大阪大学の共通教育新任教員研修のプログラム「対話型授業を目指して」に参加し、その後、研修内容について議論が行われた。本ワークショップは、大阪大学平田オリザ先生によるボディーワークであり、2010 年 3 月 25 日 14:40～16:40 に実施された。ブラインドウォークや簡単な台本を元にしたやり取り(小芝居)を行うといったボディーワークとその解説を交えながら、若者(大学生)のコミュニケーション能力の多様化や相手の経験に即したコミュニケーションの必要性など、コミュニケーションをデザインする上で重要な観点が提示されるものであり、共同実施からの参加者は 7 名であった。研究会での議論は以下の通りである。

■ ワークショップに参加して

- ベテラン教員の方が、ボディーワークやコミュニケーションに関わるワークショップによる気づきが多いのではないか。経験豊富な人間の方が、WS の内容と自身の経験を関連づけられる。
- 講義形式の授業を運営する上で示唆が多い研修会であった。例えば、大学では教卓から動かない教員が多いが、初等中等教育では違う。授業中に学生とコミュニケーションをとる上では、どこに立つべきか、どのような会話を行うべきかといったことを考える必要がある。
- 例えば、授業中の動きなどを研修としたときに、それが単なる tips として伝わってしまうのは怖い。tips ではないというメッセージが伝わるようなやり方を考える必要があるだろう。

■ 初任者研修共同実施に向けて

- ワークショップ形式だと教員の参加率が低い。ワークショップをスムーズに受けられるようなプログラムの作成が必要になるだろう。
- 共同実施でワークショップを行う場合、研究分野や大学の規模を統一すべきかどうかは議論する必要があるだろう。
- 自校教育のようなガイダンスは各大学で行うもの。共同実施はそれにプラス α した研修であるという捉え方をしてもらいたいと思う。実施時期としては、一通り授業を経験した後である夏休みが良いのではないかな。



第 2 回研究会：2010 年 6 月 19 日 関西学院大学

関西学院大学新任者研修会に参加し、その後研修内容に関する議論が行われた。研修会は、2010 年 6 月 19 日 9:10～15:30 に実施され、その内容は大きく 3 つに分けられる。1 つ目の「障がいのある学生に対する修学支援の方法」では、視覚障害や聴覚障害、また発達障害といった様々な障害を持つ学生に対する修学支援について、関西学院大学の取り組みをもとに、講演者である関西学院大学 総合政策学部教授 高畑由紀夫先生が実際に対応してきたケースや障がいを抱える学生や高校教員へのアンケート結果といった幅広い内容の話題が提供された。2 つ目の「多人数講義における双方向授業の工夫」では、関西学院大学 文学部教授 森田雅也氏より、「クリッカー」と「旗揚げ式アンケート」の 2 つのツールを用いた授業の進め方とそれぞれの利点について、クリッカーを用いたワークを通じた紹介が行われた。3 つ目の「グループ学習を成功させるコツ」では、愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室副室長・准教授 佐藤浩章氏と同特任助教 大竹奈津子氏が外部講師として招かれた。「グループワークの意義を説明できる」「グループワークを実際に自らの授業に導入してみようという動機を持つ」という 2 つの学習目標のもと、グループワークの体験とグループワークに関するレクチャー(先行研究などの紹介)を組み合わせた内容で進められた。

参加者は、新任者研修への参加が 19 名、研究会への参加が 12 名であった。研究会での議論は以下の通りである。

- 初任者を対象とする時に、障がいを抱えた学生の修学支援ということを研修に組み込んだほうがよいのかどうかは議論する必要がある。
- 障がいの問題は、新任研修だけではなく、ベテランの先生方にも必要な知識だろう。

- 障がいの問題については、学生の多様性を知らせることが重要。実際は直面しないと問題意識を持ちにくい。
- グループワークについては、それを行うことによる学生の変化といった、実際の効果を客観的に示すことが出来ればよいと思う。
- グループワークの効果について、MIT ではデータを公開している。
- グループワークに乗らない学生もいることには注意しなければいけない。

第 3 回研究会：2010 年 8 月 5 日 京都大学

京都大学文学研究科プレ FD 研修会を見学し、その後研修内容に関する議論が行われた。京都大学文学研究科プレ FD 研修会は本来、京都大学文学研究科の OD(オーバードクター)向けの研修会であるが、教育経験の少なさという点では初任者研修と共通する部分があるため、共同実施ワーキンググループの研究会の対象となった。研修会は、2010 年 8 月 5 日 13:30～17:00 に実施された。その内容は、参加者である OD が担当した授業の録画ビデオの視聴や振り返り、ミニ講義やグループディスカッション等、7つのセッションからなる。参加者は、プレ研修会への参加が 15 名、研究会への参加が 11 名であった。研究会での議論は以下の通りである。

- 初任者研修を共同実施する場合、大学間において抱える問題に関するベースが異なる。今回のプレ FD は「京大の教育」という点でベースが一緒なので議論等も進めやすいが、複数の大学が集まる共同実施では議論も難しいだろう。研修会の形式(座学と議論の組み合わせ)は今回のプレ FD のやり方でもいいが、内容は考えなければいけない。
- 各々の大学内でどのようにふるまうのかは、各々の大学で解決しなければいけない問題。共同実施で行う場合、その問題は解決できない。ただ、それぞれの大学で抱えている悩みを共有すること、そしてそこから何か気づきを得ることは重要だ。
- 近年は新任の実務家教員が増えている。彼らは現代の大学教育の流れ、用語などを知らないまま教員になる。従って、現在の大学教育の流れを把握できるような講義が短時間でもあると、そういう人たちにとってもありがたい。



2-2. 初任教員向けプログラム(Program for Junior Faculty)の立ち上げ

第 4 回研究会：2010 年 11 月 11 日 京都大学

上記の相互参観と検討を受け、2010 年 11 月 11 日に第 4 回目の研究会が開催された。この研究会は、2009 年度の活動および 2010 年度に行った 3 回の研究会での議論をふまえて、2011 年度の共同実施をどのような形で実施するのかを議論するものであった。参加者は 10 名であった。この研究会での議論の結果、2011 年度から行う初任者研修共同実施では、関西 FD で 1 つ大きなイベントを行うのではなく、関西 FD 加盟校の初任者研修を相互利用する仕組み(「関西地区 FD 連絡協議会初任教員向けプログラム (Program for junior faculty)」)の開発を目指すこととなった。2011 年度は幹事校が自校の初任者研修を公開し、あわせて研修を公開可能な大学についても募集を行うこととなった。



初任教員向けプログラム(Program for Junior Faculty)とは

関西 FD 加盟校では様々な研修会が実施されている。それら研修会の中で、「大学の所属に関係なく、大学初任教員であれば参加して効果が見込まれる」ものを公開してもらい、それを関西 FD 認定プログラムとすることとした。この初任教員向けプログラムとは、そのような関西 FD 認定プログラムを集めた研修マトリックスを作成、周知することによって、各大学の研修会を相互利用できる機会を提供するものである。(パンフレット参照)

このように相互利用を可能にすることによって、イベントとして 1 日で行った場合と比べて参加日時や場所、そして内容の選択の幅が広がり、多様な研修機会を提供することが期待できる。この認定プログラムへの参加者には関西 FD より参加証を発行をする。加盟校の文脈に応じて、「希望者が自由に認定プログラムに参加できるよう促す」、「大学で選択した特定のプログラムへの参加を義務づける」等、様々な対応が可能になるといえるだろう。

3. 2011 年度の活動方針案

3-1. 初任教員向けプログラムの充実と拡大

「初任教員向けプログラム (カンジュニ)」への参加プログラムを増加させるとともに、すでに参加されているプログラムの充実を目指す。具体的には、

1. 「初任教員向けプログラム (カンジュニ)」を広報し、多くの大学からの参加を促す。
2. ニーズのあるプログラムの新規開発を支援し、「初任教員向けプログラム (カンジュニ)」を充実させる。

3. 「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」に公開されているプログラムについて、事後検討会を実施し、プログラムの充実をはかる。

3-2. FD 共同実施 WG の再編

初任者研修を共同開発するという一応の目的を達成したため、FD 共同実施 WG2010 を解散し、FD 共同実施 WG2011 を再編成する。

FD 共同実施 WG2011 の目的

「初任教員向けプログラムの充実と拡大」

1. WG のメンバーは、自大学の研修を「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」として公開する。もしくは「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」として公開されている研修会の事後の開催される検討会に参加する。
2. WG のメンバーは、「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」の拡大のため、プログラムの新規開拓に協力する。
3. WG のメンバーは、「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」の案内と、事後の検討会の記録を ML で受け取ることができる。
4. WG のメンバーの所属大学の新任教員は、優先的に「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」に参加できるものとする。

3-3. 予算（案）

1. 「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」広報のための費用
パンフレット、ポスター作製・発送（2012 年 3 月）
2. プログラムの新規開拓のための費用
3. 事後検討会（研究会）開催のための費用
5 回程度実施

以上

FD 連携企画 WG 2011 年度活動報告・活動方針案

2011.4.27 幹事会

立命館大学、関西大学、神戸常盤大学、京都大学

1. FD 連携企画 WG の目的と組織体制

1-1. 目的

FD 連携企画 WG の目的は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ（問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など）を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントではなく、継続的に情報交換しながら、協働的に教育改善・FD を進めるための緩やかなコミュニティ形成を支援する。テーマの一般化を急がず、できるだけ各大学のローカルティに根ざしたコミュニティとなるようにする。また、できるだけ、まだ組織化されていないテーマを掘り起こすようにする。

1-2. 組織体制

FD 連携企画部と FD 連携企画ワーキンググループ（WG）は、2011 年 4 月現在、以下の大学で構成されている（敬称略）。

◇FD 連携企画部

- ・立命館大学（安岡高志）……責任校
- ・関西大学（池田勝彦）
- ・神戸常盤大学（松田光信）
- ・京都大学（松下佳代、田川千尋）……事務局

◇関西 FD パイロット校

- ・神戸常盤大学（松田光信）：2008 年度～ ＊現在、更新手続き中
 - ・藍野大学医療保健学部理学療法学科（平山朋子）：2009 年度～
 - ・京都ノートルダム女子大学人間文化学部英語英文学科（須川いずみ）：2009 年度～
- ※パイロット校の認定期間（3 年間・更新可）

◇FD 連携企画 WG

上記の 6 校

＋京都精華大学共通教育センター（高橋伸一）……2011 年度より参加 計 7 校

2. 2010 年度活動報告

2-1. ワークショップの開催

FD 連携企画ワーキンググループでは、2011 年 1 月 8 日（土）に京都大学吉田キャンパスにおいて、第 6 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント「ワークショップ：思考し表現する学生を育てる－書くことをどう指導し、評価するか？Ⅲ－」を開催した（共催：京都大学

高等教育研究開発推進センター)。本 WG では、昨年度好評を博した形式—講演とワークショップ—で開催された。以下に、このワークショップのプログラム、当日の状況、アンケート結果を報告する。

◇プログラム

13:00～13:10 開会あいさつ

田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

13:10～14:10 講演

「学生の潜在能力と対話型教育—卒論・ゼミ指導の9年間の実践から—」

北野収（獨協大学外国語学部教授）

14:10～14:40 事例紹介

「“十字モデル”を使った試み」

須長 一幸（関西大学教育推進部助教）

齊尾 恭子（関西大学教育推進部教育開発支援センター研究員）

15:00～16:30 グループワーク

16:40～18:00 全体討論

◇当日の状況

参加者は会員校から 38 名、非会員校から 13 名の計 51 名であった。中には東京や福岡など遠方からの参加者も少なからずあった。本テーマへの関心の深さがうかがわれる。

第 I 部では、松下佳代（京都大学、本 WG）による司会のもと、小講演と事例紹介が行われた。獨協大学外国語学部教授の北野収氏による小講演「学生の潜在能力と対話型教育—卒論・ゼミ指導の9年間の実践から—」では、北野氏の前任校である日本大学における 3・4 年生 2 年間の卒論指導の教育実践報告があった。この実践報告では、学生との、またゼミ内での学生同士の関係性の築き方、興味の引き出し方、そこからテーマ・問題設定へのつなぎ方、そして実際の執筆の際の指導の仕方、などが紹介された。中堅私大という背景、また、就職活動が厳しく学生の積極的参加を促すことが難しい状況の中、時間をかけた丁寧な面接とサポートにより学生自身の問題意識に基づく、頑張ることのできるテーマを選ぶことで学生のモチベーションを上げていくという氏の実践は、認知的・感情的に支援することの重要性と、協調学習がそれらを促進する可能性について示唆の多いものであった。



続いて、関西大学の須長一幸氏、齊尾恭子氏による事例紹介「“十字モデル”を使った試み」では、同大学のアカデミック・ライティングの授業で使われている、総合情報学部牧野由香里氏の開発した“十字モデル”を使った指導法が紹介された。この実践は、多くの学生がつまづく文章を書く前の作業（問



題設定、論理構成など）に時間をかけた指導法であり、図を用いた具体的な指導法の紹介は参加者に直接的に役立つものとなった。質疑応答では、3人の講演者に活発な質問が投げかけられた。

石川裕之（京都大学、本WG）によってグループワークの進め方についての説明がなされた後、第Ⅱ部に入った。第Ⅱ部では、参加者が3つの教室、あわせて9つのグループに分かれてグループワークがおこなわれた。（グループ分けは関心テーマをもとに行われた。）グループワークは、持参した資料にもとづいて各自が自身の実践を紹介し、それをグループで共有し議論した。また、議論した結果を90cm×120cmのポータブルなホワイトボードにまとめてもらった。



続く第Ⅲ部の全体討論においては、安岡高志氏（立命館大学、本WG）による司会のもと、各グループで議論した論点がホワイトボードを用いながら報告され、これをふまえ参加者全員による全体討論がおこなわれた。9グループから出された論点は、「書くことの指導と評価」という一つのテーマながら具体的な問題に対する形で多岐に渡った。主なものとしては、初年次学生への指導方法をどうすべきか、論理的思考と書くことをどうつなげて指導するか、テーマ設定をできない学生にどう指導するのか、大人数授業でどう指導するのか、学習集団をどう構成するのか、推敲力をどう育てるのか、それらの評価はどう行うのか、などである。

討論では、とりわけテーマ設定と書き方の枠組みについて、つまり「What と How の関係」について話題となったが、これは昨年も大きな議論となった点であり、指導上多くの教員が抱える疑問点である。討論ではまた、こうした指導する側をどう組織していくのか、という点にも話題が発展し、専門科目の中で教員が指導する必要性への言及からFDをどう組織して行くかという点にまで議論が及んだ。

最後に、司会の安岡氏より締めくくりとしてコメントが行われた。テーマを枠にはめるのか、あるいは書き方を枠にはめるかどうかという点について、最初に枠にはめられると窮屈に学生は思うだろうが、そのうちその枠により守られていることということが感じられるようになるのではないかと指摘がなされた。テーマ設定については、学生のオリジナルな発想に価値付けすることにより、やる気を引き出し、自信を持たせることが重要なのではということが強調された。

◇事後アンケート結果

「ワークショップ全体への参加満足度」「プログラムの有意義度（講演・事例紹介・グループワークそれぞれについて）」について5件法（1：まったく満足していない／有

意義ではなかった～5：非常に満足している・有意義だった）によりたずねたところ、それぞれの評定平均は 4.4、4.4、4.5、4.4 であった（回答者 39 名）。全体的に参加者の満足度は高く、各プログラムの内容も有意義であったとの評価が得られた。

ワークショップに満足した理由をたずねたところ、「他大学の状況がわかったこと」「悩みを共有できたこと」「抽象理論ではなく実践をふまえた話題であったこと」「具体例に基づいて学ぶことができたこと」といった回答が得られた。さらに、ワークショップ参加による最大の収穫についてもたずねたところ、「他大学の取り組み／実践例／各先生の工夫を知ることが出来たこと」「“十字モデル”という具体的なツールについて学べたこと」「専門分野以外の分野での教育について知ることができたこと」「今後のカリキュラム再編に参考になった」というようにやはり事例を共有することが高く評価されているようであった。この中で具体的な問題点を共有できたことを評価する例として、「リサーチクエストの明確化に多大な時間を要することを再確認できた」「グループワークが効果をもつ対象が結構あるものだと思感した」などという記述があげられる。

最後に、「今後に向けて改善したほうがいいと思われる点」をたずねたところ、グループワークに関する意見がいくつか寄せられた。時間がタイトであったこと、また、各自の持ち寄った事例紹介でグループワークがほとんど終わってしまったグループもあり、時間配分についてファシリテートする必要性などが指摘された。また、グループワークおよびグループ分けのテーマについて事前に知ることによって準備ができるのではという指摘もあった。（http://www.kansai-fd.org/activities/project/report_20110108.html）

2-2. コミュニティ形成とリソースの蓄積

事後アンケートでは、「FD 連携企画 WG への参加希望」「関西 FD パイロット校への参加希望」についても尋ねた。その結果、5 校から WG やパイロット校に対して、「希望する」「学内で検討したい」「もっと情報がほしい」という回答があった。その後、学内での調整を経て、京都精華大学より本 WG への参加希望が出された。

1 月 8 日のワークショップの参加者から、資料公開の許可を得ることができた資料については、本協議会ウェブサイトにおいて実践事例集として公開した。資料の内容は多岐におよんでいたため、「学生のスキル不足」「指導の範囲」「初年次教育」「大人数授業・学生の多様性」「担当教員養成」「長期的育成」「動機付け」「評価・添削」「論理的・批判的思考力」の 9 つのカテゴリーに分けて掲載している。

（http://www.kansai-fd.org/publications/resource/shiryo_20110108.html）

2-3. その他の活動

関西地区 FD 連絡協議会第 3 回総会において開かれた「FD 活動の報告会」において、本 WG から、立命館大学、関西大学、藍野大学、京都ノートルダム女子大学、京都大学の 5 校が活動報告をおこなった。また、関西 FD パイロット校の藍野大学は、全体会で「理学療法教育における自生的 FD 実践」という口頭発表もおこなった（「ニュースレター」第 4 号 http://www.kansai-fd.org/publications/pdf/News-Letter_4.pdf）。

藍野大学では、毎月ほぼ 1 回、本 WG 事務局の松下も参加して研究会を実施しており、第 17 回大学教育研究フォーラムで成果発表をおこなった。

3. 2011 年度活動方針(案)

3-1. ワークショップの開催

- ・テーマ：「思考し表現する学生を育てるⅣ」（＊サブタイトルは検討中。関西地区 FD 連絡協議会主催イベントとして実施）
- ・日時：2011 年●月●日（土）＊検討中
- ・場所：立命館大学
- ・タイムテーブル
 - 13:00～13:10 開会あいさつ
 - 13:10～14:10 講演
 - 14:10～14:40 事例紹介
 - 15:00～16:45 グループワーク（分科会形式で）
 - ・段階別…初年次教育、専門教育、卒論指導など
 - ・問題別…書くことの評価、指導の組織体制、コピペ対策など
 - 17:00～18:00 全体討論

3-2. コミュニティ形成とリソースの蓄積

昨年度のワークショップ開催によって、多少、コミュニティ形成とリソースの蓄積ができたが、まだ十分なレベルにはいたっていない。今年度のワークショップでも引き続き、コミュニティ形成とリソースの蓄積をはかる。また、リソース（実践事例集）の分類・整理のしかたについては、量の増加にあわせて見直しをおこなう。

3-3. 関西 FD パイロット校の活動

WG 内で検討した結果、新規に認定するパイロット校は、原則として、本 WG の現在のテーマである「思考し表現する学生を育てる」に即した FD 実践を計画している大学・学科等に限ることになった。

必ずしもすべてのパイロット校について期待したような実践や支援ができているわけではないので、特に新規に認定したパイロット校については、関係者との連絡を取りながら、実質的な支援をおこなっていきたい。

4. 予算

4-1. 支出

- ・ワークショップ 426,200 円（内訳は別紙参照）

4-2. 収入

- ・ワークショップ参加費（会員校無料、非会員校 1,000 円）

広報ワーキンググループ活動報告・活動方針案

1. 広報ワーキンググループ（WG）の目的と組織体制

1-1. 目的

広報 WG は、本協議会に関する広報業務をおこなう。具体的には、①ホームページおよびメーリングリストの維持・管理、②ニュースレターの発行（年 2 回）、③「FD 活動の報告会」関連業務（MOST 講習会の共催、報告書作成）を実施する。

1-2. 組織体制

広報部は以下のように構成されており、2011 年 4 月現在、部と WG の構成員は一致している（敬称略）。

- ・大阪市立大学（大久保敦）・・・責任校
- ・和歌山大学（伊東千尋）
- ・京都大学（酒井博之、藤本夕衣、笹尾真剛）・・・連絡担当

2. 2010 年度活動報告

2-1. ニュースレターの発行

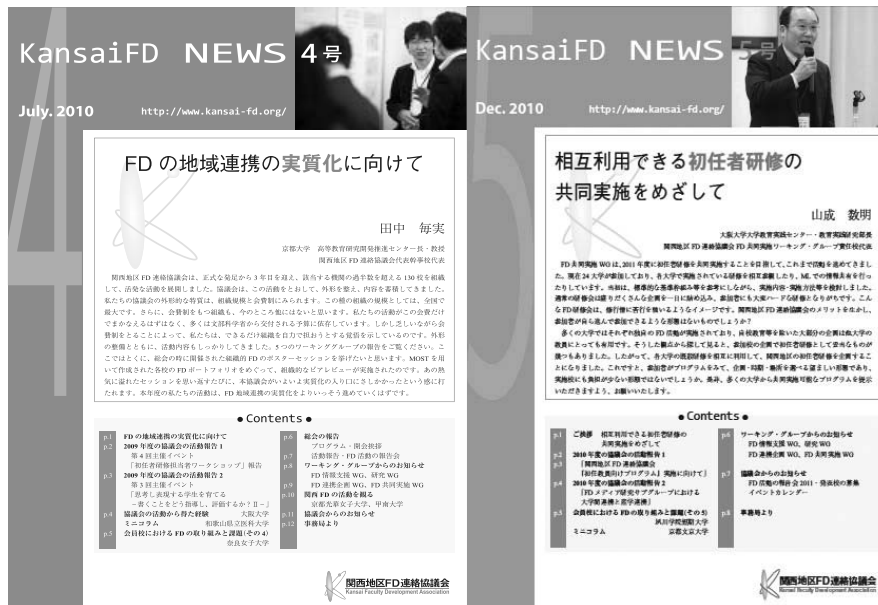
ニュースレターについては、7 月に第 4 号（編集責任者：菊川恵三）、12 月に第 5 号（編集責任者：矢野裕俊）を発行した（図 1）。900 部作成し、全会員校および原稿執筆者宛に送付した。非会員校についても入会を促すため各号 1 部を送付した。また、PDF 版を協議会ウェブサイトへ掲載し、一般公開した。

2010 年度は、協議会が実施するイベントの活動報告のほか、会員校間の情報共有を促進するため、会員校における組織的 FD 活動の紹介を充実させてきた。第 4 号では、大阪大学、奈良大学、和歌山県立医科大学、京都光華女子大学、甲南大学より、第 5 号では大阪成蹊大学、夙川学院短期大学、京都文教大学より活動報告記事を作成頂いた。また、第 5 号では FD 共同実施 WG の活動に焦点を当て、「初任者研修プログラム」実施に向けての活動紹介をおこなった。

2-2. ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

関西地区 FD 連絡協議会のウェブサイト（<http://www.kansai-fd.org>）の維持・管理を随時おこなっている（図 2）。2010 年度は、ウェブサイトのコンテンツの整備と、会員校の教職員が自由に情報発信可能なツイッターのハッシュタグ（#kansai_fd）の表示機能を追加した。

また、幹事校や各 WG および研究サブグループにおける連絡用、全会員校への案内用のメーリングリストを適宜作成、更新し、管理をおこなった。



(a) 第4号

(b) 第5号

図1 関西地区FD連絡協議会 ニュースレター



図2 関西地区FD連絡協議会 ウェブサイト

2-3. 「FD 活動の報告会」 関連業務

2010 年度総会にて試行された「FD 活動の報告会」の報告書を作成し、ニュースレター第 4 号と合わせて会員校に送付した（図 3）。また、次年度の「FD 活動の報告会」におけるポスター発表の原稿作成が「MOST」（<https://online-tl.org>）を利用することが推奨されており、システム利用のための講習会を 3 月 11 日に共催した。MOST 講習会のプログラムを資料に示す。



図 3 「FD 活動の報告会」 報告書

3. 2011 年度活動方針案

3.1 ニュースレターの発行

本協議会のニュースレターを 2 度発行する。前年度に引き続き、関西 FD における活動報告のほか、会員校で実施されている FD の取り組み紹介の充実を図る。

・第 6 号（7 月頃）

内容（案）：2011 年度総会報告、協議会活動報告、会員校取り組み紹介など

※「FD 活動の報告会」の報告書を同封する予定

・第 7 号（1 月頃）

内容（案）：協議会活動報告、会員校取り組み紹介など

3.2 ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

前年度に引き続き、協議会のウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理をおこなう。

3.3 「FD 活動の報告会」 関連業務

2011 年度の総会と合わせて開催される「FD 活動の報告会」の報告書を作成し、ニュースレター第 6 号に同封し、会員校に送付する。また、翌年度の報告会のための MOST 講習会を京都大学と共催する。

4. 2011 年度予算（案）について（別紙参照）

◆2011 年度予算（案） 875,520 円

1) ウェブサイト関連

- ・ドメイン維持費 年額 4,620 円
- ・サーバー維持費 年間 50,400 円 (@4,200 円×12 ヶ月)

2) ニュースレター関連

- ・総会のテープ起こし、要約費 33,000 円（総会議事要約含む）
- ・ニュースレター 6 号印刷費 180,000 円（12 頁、900 部）
- ・ニュースレター 6 号発送費 48,000 円（メール便）
- ・ニュースレター 7 号印刷費 165,000 円（8 頁、900 部）
- ・ニュースレター 7 号発送費 14,500 円（メール便）

3) 「FD 活動の報告会」関連（※報告会の実施経費は協議会全体として計上）

- ・報告会報告書作成費 350,000 円

4) その他

- ・文具費 30,000 円（「FD 活動の報告会」関連）

以上

MOST 講習会

日 時：2011 年 3 月 11 日（金）14:30～17:00

場 所：京都大学吉田南 1 号館 1 共 2 3 教室（下記の会場地図参照）

主 催：京都大学高等教育研究開発推進センター

共 催：関西地区 FD 連絡協議会 広報 WG

概 要

来る 5 月 21 日（土）開催の関西地区 FD 連絡協議会第 4 回総会では、会員校の FD 活動に関わる報告を、ポスター発表の形式で実施する「FD 活動の報告会」が予定されています。会員校の FD 活動をオンライン上で共有・蓄積するために、ポスター発表の原稿は“MOST”と呼ばれるオンライン・システム（<https://online-tl.org>/参照）で作成するとたいへん便利です。本講習会は、関西 FD 会員校の教職員を対象に、総会での発表原稿を実際に MOST を利用して作成するものです。本協議会会員校に所属する教職員の方はどなたでも参加できます（ただし 1 法人につき 2 名まで）。ふるってご参加下さいますようお願いします。
※MOST（Mutual Online System for Teaching & Learning：モスト）は、大学教員の教育研修のためのオンライン支援システムです。

参加条件：関西地区 FD 連絡協議会会員校に所属する教職員。5 月 21 日開催の本協議会総会において、ポスター発表をおこなう会員校を優先します。定員は 30 名。

※PC 操作をおこないますので、実際に MOST を利用される教職員のご参加を推奨します。

※できましたら各自ノート PC をご持参下さい。貸出用のノート PC も準備しております（先着順）。

講習会参加にあたって：参加される方は、講習会当日、「発表原稿に用いる予定のテキストや図表などの電子データ」をご持参下さい。事務局でもテスト用の画像やテキストを準備しますが、ポスター作成を効率的に行うため、できる限りデータをご持参下さい。

また、可能であれば「取り組みに関連する画像データ」「貴学／貴部局のロゴマーク」もご持参下さい。

※参考（作成原稿イメージ）：<https://online-tl.org/keep25/toolkit/html/snapshot.php?id=33695268103569>

参加費：無料

参加方法：下記の関西地区 FD 連絡協議会ウェブサイトから、「FD 活動の報告会」の申込みフォームをご利用下さい。

申込みフォーム：<http://www.kansai-fd.org/peer-review2011.html>

※MOST 講習会のみ参加を希望される方は、以下の問い合わせメール宛に個別にご連絡下さい。講習会の内容はポスタ

一原稿作成向けに構成しておりますので、その点ご了解下さい。

問い合わせ先：peer-review@kansai-fd.org（担当：酒井）

プログラム

- 14:00 受付開始
- 14:30 趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明
- 14:40 操作説明
- 15:20 参加者によるスナップショット※作成
- 17:00 終了

※「スナップショット」とはMOST内のKEEP Toolkitを利用して作成したコンテンツを指します

会場地図：京都大学 吉田南1号館 1 共2 3 教室（吉田南構内）



以上

研究ワーキンググループ(WG)2010 年度活動報告 ・2011 年度活動計画(案)

研究ワーキンググループ (WG) は、共同して研究すべき課題に関して、研究サブグループ (SG) などを設置し、共同研究を企画・推進する。研究 WG は、各研究 SG の参加者の中から主査を指名し、活動が円滑に進むようにサポートする。共同研究の成果は、関西 FD のワークショップや各種フォーラム、ホームページ (HP) などで広く共有を図る。現在、研究 WG は、責任校を神戸大学とし、龍谷大学・龍谷大学短期大学部、大阪成蹊大学、京都大学で構成されている。

2010 年度は、関西地区 FD 連絡協議会第 3 回総会 (4 月 24 日) において承認された活動計画に基づいて、新規の研究サブグループ (SG) を加えた 4 つの研究 SG で活動を行った。現在、研究 SG は、「授業評価研究 SG」 (主査校：神戸大学)、「FD メディア研究 SG」 (主査校：大阪成蹊大学)、「FD デザイン研究 SG」 (主査校：神戸大学)、「授業型学生支援研究 SG」 (主査校：京都大学) の 4 つとなっている。研究 WG や各研究 SG の活動方針等については、関西地区 FD 連絡協議会の WG に関するホームページ (<http://www.kansai-fd.org/wg/>) に掲載されている。

以下では、2010 年度の各研究 SG の活動内容の概要を報告する。

1. 授業評価研究 SG

2010 年 9 月 27 日 (月)、京都大学において第 1 回会合が開催された。会合には SG に所属する 13 大学 15 名の参加があり、授業評価の活用方法に関する現状と課題、各大学における授業評価を通じた授業改善活動について活発な議論が交わされた。今回の会合での議論から見てきた共通の課題は、教員あるいは学生に対する授業評価の結果の公表 (フィードバック) をどう行っていくかということであった。このような議論を受け、2011 年 3 月 16 日の授業評価ワークショップで、さらに議論を深めていくこととした。

1-1. 第 1 回会合

(a) 開催概要

日時：2010 年 9 月 27 日 (月) 15:00～18:15

場所：京都大学 吉田南 1 号館 共 106 室

参加大学：関西医療大学、関西看護医療大学、京都医療科学大学、京都大学、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部、神戸大学、大阪樟蔭女子大学、大阪成蹊短期大学、大阪体育大学、大阪大学、兵庫大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部、和歌山信愛女子短期大学

(b) 議事

1. 議事次第と配付資料に関する説明

2. 授業評価研究 SG 主査の挨拶

(米谷 淳 教授 (神戸大学))

3. 授業評価研究 SG の活動についての報告 (大塚 雄作 教授 (京都大学))

- ・これまでの SG の活動について
- ・授業アンケート様式
- ・現在抱えている課題 (授業改善への実際の活用、実施時期、回収率、作業負担、自由記述の様



式や結果のまとめ方、結果のフィードバックの公開内容や公開範囲)等について
4. 質疑応答および自由討論

1-2. 授業評価ワークショップⅡ — 授業評価の効率的活用と効果的活用

2011年3月16日(水) 13:00~18:00、京都大学吉田南総合館において、関西地区FD連絡協議会・研究WG・授業評価研究SG主催、京都大学高等教育研究開発推進センター共催で、「授業評価ワークショップⅡ—授業評価の効率的活用と効果的活用」と題したワークショップが開催された。

まず、松本和一郎教授(龍谷大学)による開会の挨拶に続き、2つのミニレクチャーが行われた。ミニレクチャー1では、米谷淳教授(神戸大学)より、授業評価の最近の動向に関する講演が行われた。講演においては、P・セルディンの”changing Practices Evaluating Teaching”を引き、学生による授業評価は本来「評価」ではなく、「フィードバック」であることが紹介された。学生からのフィードバックを授業改善にどのように生かせるかが大切であり、教員側に改善策に関する知識とモチベーションがあること、学生の教育への関与度が重要であることが述べられた。ミニレクチャー2では、福永栄一教授(大阪成蹊大学)から授業評価におけるメディア活用に関する講演が行われた。メディア活用で成果を上げるためには、ただシステムだけを導入すればよいのではなく、導入方法や活用法も同時に伝える必要があることや長期的スパンで考える重要性(例えば、検討・準備段階の重要性、関心の高い教員による試行的な実施など)が述べられた。

その後は、事前アンケートを基にテーマごとに分れてグループワークが行われた。グループは、「授業評価の実施・利用メディアに関する分科会」(1グループ)、「授業評価の分析・結果等に関する分科会」(1グループ)、「授業評価の活用に関する分科会」(4グループ)の計6グループであった。グループワークの前半では、各大学の授業評価の現状、授業評価に関する疑問点が出され、その疑問点の質疑応答を含む中間質疑をはさんで、後半のグループワークが行われ、前半で出された課題や中間質疑を踏まえ、それらに対する解決策やより詳細な情報交換がなされた。最後の全体会では、各グループからグループワークの報告が行われ、さらに、授業評価の実施や活用、課題について活発な議論が行われた。

3月11日に起こった東日本大震災・原発事故の影響がまだ大きく及ぶなか、関東地域から参加を予定していた数名の欠席があったが、9割強の37名の参加が確保できた。事後アンケートの全般的参加満足度の評定平均値は、4.50(5段階評定・約53%が5の評定)と十分高い値であり、自由記述や各セッションの評定などから、中間質疑の位置づけや議論の際の論点の明確化などの点で課題も残されたが、参加者にとって有意義な情報交換・情報共有の場となったと思われる。



グループワーク



全体会グループ発表

2. FDメディア研究SG

FDメディア研究SGは、昨年度は出欠確認研究SGとして活動を行っていたが、本年度より名称を改め、研究課題を拡大して活発な活動を行っている。以下では、SG会合の概要と携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認見学会、i-MAS個別見学・相談会の概要についてまとめる。

2－1. 第1回会合

(a) 開催概要

日時：2010年5月21日（金）16:30～18:00

場所：大阪商業大学メディアセンター4階、レクチャールーム2・3

参加校・企業：合計21校、1企業、31名（順不同）

- ・メンバ校（追手門学院大学、大阪工業大学、大阪商業大学、京都文教大学、摂南大学、関西医療大学、天理大学、京都産業大学、神戸大学、大阪成蹊大学）
- ・オブザーバ校（京都大学）
- ・オブザーバ企業（内田洋行）
- ・ゲスト参加校（関西学院大学、近畿大学、立命館大学、関西大学、京都女子大学、奈良文化女子短期大学、京都精華大学、京都光華女子大学、流通科学大学、帝塚山大学）

(b) 議事

1. 新規メンバの紹介（自己紹介）

新規メンバ、ゲスト参加者の学校名提示と自己紹介があった。

2. 出席管理システムテスト運用報告

大阪商業大学より別途資料に基づいて、平成21年11月2日（月）～12月25日（金）に行った携帯電話での出席管理システムのテスト運用に関して以下の報告があった。

- ① 出席管理システムテスト運用実施説明
- ② 出席管理システムテスト運用実施科目
- ③ 携帯電話利用の出席管理システムを使用しての感想
- ④ 携帯電話利用の出席管理システムのメリット
- ⑤ 携帯電話利用の出席管理システムのデメリット
- ⑥ 携帯電話利用の出席管理システムの導入時の要望

また、携帯電話を利用した授業アンケートに関する実施結果の報告があった。

報告に対して、次のような質疑応答があった。

- ・携帯電話での出席と同時に小テストをするケースがあるが、これは2重作業にならないか
→携帯から出席登録させているので、小テストの結果を入力する際に間違いが起きないなどのメリットがある。単に小テストをやって、自分がエクセルで集計するよりは簡単で正確に行える。
- ・ログインパスワードを忘れた学生がいた
→導入当初は僅かだがこのようなことがある。1ヶ月程度でこのようなことが起きなくなる。
- ・出席をとったら帰ってしまう学生がいても対処できるか
→2度出欠確認をする機能が用意されている。

3. FDメディア研究SGの説明

大阪成蹊大学より、以下の説明と提案があり了承された。

3-1. FDメディア研究SGの取組み

3-1-1. 研究テーマ

- ・ケータイ等のICT（i-MAS）を利用した授業アンケート、出欠確認の実施方法等のあり方

- ・ i-MAS 機能拡大による、その他の授業改善につながる ICT の利用方法等のあり方
- ・ 大学規模での ICT 導入方法のあり方等

3-1-2.SG の研究対象

- ・ FD 全般

3-1-3. 主目的

- ・ ICT 等のメディアを活用して F D 効果を実現すること

3-1-4. 携帯電話での出欠確認、授業評価のテスト使用

関西 FD 研究 WGFD メディア研究 SG 及び関西 FD 参加校に携帯電話での出欠確認、授業評価のテスト使用（無料）を呼びかけ、希望があれば使用し、その効果などを確認する。

3-2. メンバ一覧表の配布

3-3. SG 平成 22 年度スケジュール

3-3-1. 会合（改正提案）

年 5 回のペースで開催する。

5 月：出席管理システムテスト運用報告（大阪商業大学）他

7 月：i-MAS 新機能について（大阪成蹊大学）（7/16）

9 月：メンバ大学の事例発表他（9/10）

12 月：メンバ大学の事例発表他（月曜日）

3 月：メンバ大学の事例発表他（月曜日）

3-3-2. 大阪成蹊大学で、携帯電話での出欠確認、授業評価の見学会を実施する関西 F D 参加

校を対象として、携帯電話での出欠確認、授業評価の見学会を開催する。前期：6 月、後期：11 月を予定。また、アンケート翌週の授業でその結果と対応を学生に回答するところの見学も検討する。

4. 次回研究会開催日程、発表校の確認

日時：2010 年 7 月 16 日（金）16:30～18:00

場所：大阪成蹊大学相川キャンパス

発表校：大阪成蹊大学

*会合終了後、12 校・1 企業 17 名で懇親会を実施した。



2－2. 第 2 回会合

(a) 開催概要

日時：2010 年 7 月 16 日（金）16:30～18:30

場所：大阪成蹊大学

参加校・企業：合計 17 校、2 企業、25 名（順不同）

・メンバ校（追手門学院大学、大阪商業大学、京都文教大学、摂南大学、関西医療大学、天理大学、

京都産業大学、神戸大学、大阪国際大学、奈良文化女子短期大学、京都光華女子大学、帝塚山大学、大阪青山大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊大学)

- ・オブザーバ校（京都大学、関西福祉大学）
- ・オブザーバ企業（内田洋行、青森共同計算センター）

(b) 議事

1. 新規メンバの紹介（自己紹介）

参加者リストに基づいて、龍谷大学、大阪国際大学、奈良文化女子短期大学、京都光華女子大学、帝塚山大学、大阪青山大学、びわこ成蹊スポーツ大学、関西福祉大学、内田洋行、青森共同計算センターからの自己紹介があった。

2. 次回以降の開催について

次回（第 10 回）会合：9 月 10 日（金）、大阪国際大学開催で検討することとなった。

第 11 回会合：12 月 6 日（月）又は 13 日（月）、びわこ成蹊スポーツ大学開催で検討することとなった。

第 12 回会合：2011 年 3 月、京都光華女子大学開催で検討することになった。

3. i-MAS（携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認）システムについて

3.1. 以下の内容で、当番校の大阪成蹊大学より発表があった（配布資料参照：PDF 1.9MB）。

- ・既存機能
携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認
- ・新機能
連続欠席者抽出、出席率分析機能
早退チェック機能
毎回の授業で使える簡易アンケート機能、小テスト機能
学生生活アンケート機能
授業評価公開機能
授業公開機能
- ・テスト導入時、本番導入後のアンケート調査について
アンケート内容が提示され、意見が求められた

3-2. i-MAS システム導入手順（苦労話）

3-3. i-MAS の活用から総合的な F D 活動へ

4. 次回研究会開催日程、発表校の確認

日時：2010 年 9 月 10 日（金）時間未定

場所：大阪国際大学（予定）

発表校：大阪国際大学

*会合終了後、9 校・2 企業 13 名で懇親会を実施した。

2－3. 第 3 回会合

(a) 開催概要

日時：2010 年 9 月 10 日（金）16:30～18:30

場所：大阪成蹊大学南館 185 室

参加校・企業：合計 8 校、2 企業、13 名（順不同）

- ・メンバ校（関西医療大学、京都光華女子大学、奈良文化女子短期大学、京都文教大学、摂南大学、大阪成蹊大学、大阪国際大学、龍谷大学）
- ・オブザーバ企業（内田洋行、青森共同計算センター）

(b) 議事

1. 大阪国際大学における FD 活動について

大阪国際大学石井康夫先生から以下の取組みの説明があった。

- ・大阪国際大学における年間 FD 関連行事
- ・授業評価
- ・授業自己点検
- ・公開授業
- ・基礎教育科目に関する取り組み
- ・共通テキスト・教員用マニュアル作成の経緯
- ・初年次教育カリキュラムキャンパス共通化について
- ・民間転職者の FD に係る悩み FD に係る課題

質疑応答で、取り組みを賞賛する意見があった。

2. 事務局提案

大阪成蹊大学福永より、i-MAS テスト導入を実施する学校の FD 効果を実現すること、FD メディア研究サブグループの発展、今後 i-MAS をテスト導入・本格導入する学校の支援するために次の提案があった。

- ・FD メディア研究サブグループでの i-MAS テスト導入について
- ・FD メディア研究サブグループでの一人 i-MAS テスト使用について
- ・i-MAS テスト導入アンケートについて

注：i-MAS は、internet-Mobile Attendance System（携帯電話での出欠確認システム）の略

3. 次回（第 11 回）会合

日時：2010 年 12 月 13 日（金） 16:30～18:30

場所：大阪成蹊大学相川キャンパス

発表校：びわこ成蹊スポーツ大学

*会合終了後、4 校・2 企業 8 名で懇親会を実施した。

2－4. 第 4 回会合**(a) 開催概要**

日時：2010 年 12 月 13 日（月） 16:30～18:40

場所：大阪成蹊大学南館 181 室

参加校・企業：合計 13 校、2 企業、22 名（順不同）

- ・メンバ校（神戸大学、帝塚山大学、大阪商業大学、関西医療大学、大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、京都文教大学、天理大学、奈良文化女子短期大学、藍野大学、四條畷学園短期大学、大阪樟蔭女子大学）
- ・オブザーバ校（京都大学）
- ・オブザーバ企業（内田洋行、青森共同計算センター）

(b) 議事

1. 開催にあたって

関西地区 FD 連絡協議会研究 WG 主査米谷淳教授より、関西地区 FD 連絡協議会における FD 活動等の解説をいただいた。

2. びわこ成蹊スポーツ大学での i-MAS 運用状況について

びわこ成蹊スポーツ大学金森教授より、i-MAS 導入までの流れ、i-MAS 使用状況、i-MAS のメリット、講義



科目のメリット、2009 年度・2010 年度授業評価アンケート、今後の展望などの発表があった。

3. 大阪商業大学でのテスト導入について

大阪商業大学高橋美貴教授より 23 年度 i-MAS 本格導入に向けた今年度のテスト導入状況の報告があった。
12 科目で実施しており 2600 名程度の学生が対象になっている。

4. 関西医療大学でのテスト導入について

関西医療大学榎田高士教授、吉岡正樹事務局長より、i-MAS テスト導入の状況の報告があった。
i-MAS テスト導入に至る経過、委員会の立ち上げ、説明会、テスト使用状況などが報告された。

5. トラブル報告

青森共同計算センター清野課長より、障害報告があった。

6. 第 7 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント

授業評価ワークショップⅡに本研究 SG も積極参加したい旨の提案があった。

7. 次回以降会合

来年度も年間 5 回程度の会合開催を計画していること、未発表校は今後は是非発表頂きたい旨の提案があった。

8. 本日の会合に関して

関西地区 FD 連絡協議会事務局大塚雄作教授より、今回の会合に関する総括をいただいた。



2－5. 前期「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」見学会

日時：2010 年 6 月 9 日（水）10:30～11:30、6 月 14 日（月）10:30～11:30

場所：大阪成蹊大学 相川キャンパス

6 月 9 日、14 日の 2 回に分けて大阪成蹊大学相川キャンパスで、「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」の見学会を実施した。6 月 9 日（水）は 7 校、1 企業、16 名参加、6 月 14 日（月）は 11 校、1 企業、19 名参加、合計 16 校、1 企業、35 名参加。

2－6. 後期「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」見学会

日時：2010 年 11 月 30 日（火）12:50～14:50、12 月 1 日（水）11:50～13:10

場所：大阪成蹊大学 相川キャンパス

11 月 30 日、12 月 1 日の 2 回に分けて大阪成蹊大学相川キャンパスで、「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」の見学会を実施した。11 月 30 日（火）は 6 校、8 名参加、12 月 1 日（水）は 3 校、1 企業、7 名参加、合計 9 校、1 企業、15 名参加。

2－7. 第 1 回 i-MAS 個別見学・相談会

(a) 開催概要

日時：2010 年 7 月 30 日（金）13:00～17:00

場所：大阪成蹊大学 相川キャンパス

見学・相談校：関西医療大学、大阪国際大学

導入指導校：京都文教大学、大阪成蹊大学

参加者：垣鏑祐介氏（京都文教大学）、吉岡正樹氏、山口英樹氏、榎田高士氏、高崎恭輔氏（以上関西医療大学）、石井康夫氏（大阪国際大学）、福永栄一氏（大阪成蹊大学）

(b) 議事

1. 開催校（大阪成蹊大学）からの説明

以下の資料に基づいて、i-MAS での授業評価アンケート、出欠確認のテスト導入手順を大阪成蹊大学福永より説明があった。

- ・ i-MAS による授業評価アンケートの資料

少数教員でのテスト使用

学部全体でのテスト使用

学部全体での導入、導入後の運用

- ・ i-MAS と既存システムのデータ連携に関する資料
- ・ i-MAS と既存システムのデータ連携の作業内容、作業量に関する資料
- ・ 学生へのガイダンス（説明）に関する資料
- ・ 教員への i-MAS の説明に関する資料
- ・ i-MAS に関する Q&A 資料
- ・ 保護者への連絡に関する資料
- ・ i-MAS 導入のためのプロジェクトチーム設立、プロジェクト推進に関する資料

テスト導入の前に、1 教員・1 授業で i-MAS を使うことができる。この方法でまず、具体的に i-MAS の効果などを確認することになった。

2. 導入指導校（京都文教大学）からの説明

次以下の資料に基づいて、i-MAS での授業評価アンケート、出欠確認のテスト導入に関する重要ポイントなどを、導入実績・経験に基づいて京都文教大学垣鍔祐介氏より説明があった。

- ・ これまでの授業評価アンケートに関する資料
- ・ i-MAS による授業評価アンケートの資料
- ・ アンケートシートのサンプル
- ・ 授業評価アンケート集計冊子

3. i-MAS 体験

参加者が実際に i-MAS を体験した

- ・ 出欠確認
- ・ 簡易アンケート（小テスト）

参加者が出席分析機能等を確認した

- ・ 連続欠席分析
- ・ 欠席率分析
- ・ 学生生活アンケート

4. 質疑応答、その他

随時、活発に質疑応答が行われた。

5. 今後について

- ・ 授業評価アンケートの現状を FD メディア研究サブグループで共有するために、ワークショップ等の開催が提案された
- ・ 授業評価アンケートデータのグラフ化など、FD メディア研究サブグループ参加校共同での開発が提案された

3. FDデザイン研究SG

FD デザイン研究 SG は、FD の研修会や研修プログラムなどのあり方を、インストラクショナル・デザインの理論等をベースに共同研究を進めることを目的とする SG として、本年度から新規の SG として活動を開始した。第 1 回会合は、9 月 6 日（月）午後 3 時 30 分～5 時 30 分場所 神戸大学国際文化学部キャンパスで開催された。

3－ 1. 第 1 回会合（共同研究会）

（a）開催概要

日時：2010 年 9 月 6 日（月）15:30～17:30

場所：神戸大学 鶴甲第一キャンパス

参加者：大野隆、米谷淳、山内乾史（神戸大学）、大塚雄作、酒井博之（京都大学）、三宅エリ子（同志社女子大学）、福永栄一（大阪成蹊大学）

（b）議事

1. 主査校（神戸大学）からの説明

- ・ FD メディア研究 WG の趣旨
- ・ 第 1 回共同研究会の説明
- ・ 講師紹介

2. 研究発表

- ・ 発表者 酒井博之氏（京都大学）
- ・ タイトル 「オンライン FD 支援システム “MOST” と FD デザイン」
- ・ 要約 MOST は京都大学がカーネギーメロン大学の技術協力を得て FD のために開発したツールであり、すでに関西地区 FD 連絡協議会などで使用されている。この開発のねらいから今後の運用計画までが説明された。

4. 授業型学生支援研究SG

授業型学生支援研究 SG は、授業の場で自己理解やメンタルヘルスの向上に役立つ予防的知識やスキルを提供する授業実践について共同研究を行うことを目的とし、新規の SG として活動を開始した。第 1 回会合は、2010 年 11 月 19 日（金）、京都大学において行われた。本 SG は新規の SG であるため、今回の会合では本 SG の趣旨を確認するとともに、各参加者の現在の関心を共有し、今後の活動方針について議論することを目的とした。

会合では、学生の不適応予防や自己理解の促進に役立つ授業の実践例が報告され、その意義や実施上の工夫点、課題などが活発に議論された。第 2 回会合では、予防的な実践を取り上げた文献に関する研究会を実施し、実践内容や課題点の共有を行った。

4－ 1. 第 1 回会合

（a）開催概要

日時：2010 年 11 月 19 日（金）12:00～14:30

場所：京都大学 吉田南 1 号館 201 会議室

参加大学：京都文教大学、大阪国際大学、京都大学

(b) 議事

1. 授業型学生支援研究 SG の趣旨説明、参加者の自己紹介
2. 授業の場における予防的実践例の報告
3. 今後の活動計画
4. 自由討論

4－2. 第2回会合

(a) 開催概要

日時：2011年2月18日（金）11:00～14:00

場所：京都大学 吉田南1号館 106会議室

参加大学：京都文教大学、大阪国際大学、京都大学

(b) 議事

1. 授業の場における予防的実践に関する研究事例の紹介
2. 自由討議
3. 今後の活動方針

Ⅲ. 研究 WG の 2010 年度の活動計画（案）

(1) 研究 WG の活動方針

- 各研究 SG ごとに、自主的に、共同研究活動を推進する。研究 WG は、その活動に必要な支援を行う。
- 各研究 SG の活動内容は、関西 FD のホームページに掲載すると共に、公開研究会や大学教育研究フォーラム（京都大学）の場などを利用して、共有を図る。
- 研究 SG については、授業評価研究 SG、FD メディア研究 SG、FD デザイン研究 SG、及び、授業型学生支援研究 SG の 4 つの SG の活動を継続して推進することとし、本年度は特に新規の SG を作ることはしない。ただし、総会終了後、早い時期に、いずれの研究 SG も、再度、参加の募集の案内を、関西 FD のメーリングリストを通じて行う。

(2) 「授業評価研究 SG」の計画案

- SG 研究会を 1～2 回程度開催すると共に、授業評価ワークショップの開催を企画・実施する。
- 学生授業評価だけでなく、教育効果の検証、学習成果の評価、学生のフォローアップなど様々な角度から大学教育の成果を検証する方法について検討し、その成果を来年 3 月に京都大学で開催される大学教育研究フォーラムのラウンドテーブル等で報告し、参加者と討議できればと考えている。
- 授業評価ワークショップの開催費、SG 会合の会議費等を必要とする。

(3) 「FD メディア研究 SG」の計画案

- SG 研究会を 5 回程度開催すると共に、ケータイ等を利用した授業アンケート、出欠確認の見学会を実施する。
- ケータイによるアンケートシステム（i-MAS）の共同利用のために、i-MAS のモニター利用料（雑役務費）を必要とする。
- 会合開催費（資料代・お茶代）等の会議費を必要とする。

(4) 「FD デザイン研究 SG」の計画案

- SG 研究会を 2～3 回程度開催する。また、大学教育研究フォーラムなどのラウンドテーブルなどで、研究成果の一端を報告する。
- D の評価や成果の検証やティーチング・ポートフォリオについて FD のデザインやコンセプトとあわせて検討し、その成果を来年 3 月に京都大学で開催される大学教育研究フォーラム等で報告できればと考えている。
- 研究会の講師謝金、SG 会合の会議費等を必要とする。

(5) 「授業型学生支援研究 SG」の計画案

- 自己理解やメンタルヘルスの促進に役立つ授業に関する実践研究、効果検証を行っている教員をメンバーとし、文献講読や実践報告に関する研究会を継続的に行い、情報や課題の共有を行うとともに、授業開発に関する共同研究を行う。成果は大学教育研究フォーラム等で発表する。
- 会合開催費（資料代・お茶代）等の会議費を必要とする。

(6) 研究 WG の予算案

- 会合開催費（資料代・お茶代）、および、講師謝金・旅費を必要とする。会議・研究会等 10 回程度の会議費（5,000 円×10 回＝50,000 円）、外部講師招聘 3 名程度（旅費＝50,000 円×3・謝金約 36,000 円×3＝258,000 円）、i-MAS システム利用費（100,000 万円）、計 408,000 円。

III-2. FD 活動の報告会

2011 年 5 月 21 日（土）、関西地区 FD 連絡協議会第 4 回総会において、会員校で組織的に取り組まれている FD や教育改善の活動についてポスター発表の形式で情報交換をおこなう「FD 活動の報告会 2011」が開催された（写真 1、資料 1）。本報告会は、昨年度の試行を受け、今年度より本協議会での定期的な FD 活動に関する情報交換の場として正式開催されることになった。昨年度は幹事校を中心に 17 の発表があったが、今年度の発表校数は 12 件で、やや発表数は減少したが、昨年同様、約 1 時間にわたり報告会の開始から終了まで活発な意見交換がおこなわれた。



写真 1 「FD 活動の報告会 2011」の会場の様子

本報告会は、以下に述べるようなねらいが含まれている（図 1、資料 2）。まず、各会員校で取り組まれている組織的な FD や教育改善の活動の情報交換の場を本協議会の公式の活動として設けることである。これをポスターセッションの形式で実施している。年に一度、各会員校の活動成果について共有する場を設けることは、発表校にとっては組織の取り組みのアピールの機会となるとともに、会員校からの意見や助言などを得る機会ともなる。また、総会への参加校にとっても他の会員校の取り組みを担当者から直接説明を受け、そのノウハウを自身の組織の活動に活かす機会である。このように、FD に関する互助組織としての本協議会の特徴を反映させた活動といえる。

次に、各ポスター発表の内容に対し、会員校がコメントを付けるピアレビューをおこなっている。ポスターの作成者には、あらかじめポスター上に「取り組みの視点」「コメントが欲しい点」を記述するよう依頼しており、他者がポスターを読む際の視点を与えるようにした。このピアレビューで

は、ポスターの原稿を総会までに会員校に読んで貰い、事前にコメントを作成し提出してもらう「指定校用コメントシート」と、総会の参加者が報告会の場で自由にコメントを付ける「一般用コメントシート」を準備した。前者は、発表校につき3校の指定校にコメントを依頼し、総会に出席不可能である場合などを除き多くの会員校からの同意があった。結果として、数校を除くほぼすべての発表に対して指定した会員校からのコメントが提出された。一般的なポスター発表では、発表者と聴者間で発表内容をめぐってなされた議論はその場限りで保存されるものではないが、このようなコメントを簡潔な文書として交換し、さらに会員校間で共有することで、FD に関して抱える課題や評価の視点を相互に強化することができると思われる。このピアレビューの実施は、本協議会の大きな特徴であり、他に例を見ないものである。

ポスターの原稿は、MOST¹ と呼ばれるオンラインシステムを利用し、KEEP Toolkit を使ったスナップショットとしてオンライン上で作成することが推奨された。昨年度と同じく、ほとんどの発表校が MOST を利用して原稿を作成し、これ以外の発表原稿と合わせて一覧にしたものを、協議会の成果としてウェブ上で対外的に発信した（図 2）。下記の URL から各ポスターにアクセスできる。なお、ピアレビューのコメントについては、会員校の共有財産として本冊子および会員校の教職員のみがアクセスできるオンラインコミュニティ内で公開されている²。これを毎年継続することで、会員校の FD の取り組みを網羅することを目標としている。また、これらを互いに関連づけたり分類したりして提示することで、同様の取り組みをおこなっている会員校同士をつなぎ合わせ大学間連携などに発展する可能性もあると考えている。さらに、協議会全体の成果としてウェブ上で発信することは、社会に対する説明責任を示すことにもなるだろう。

http://www.kansai-fd.org/activities/meeting/20110521_peer-review.html

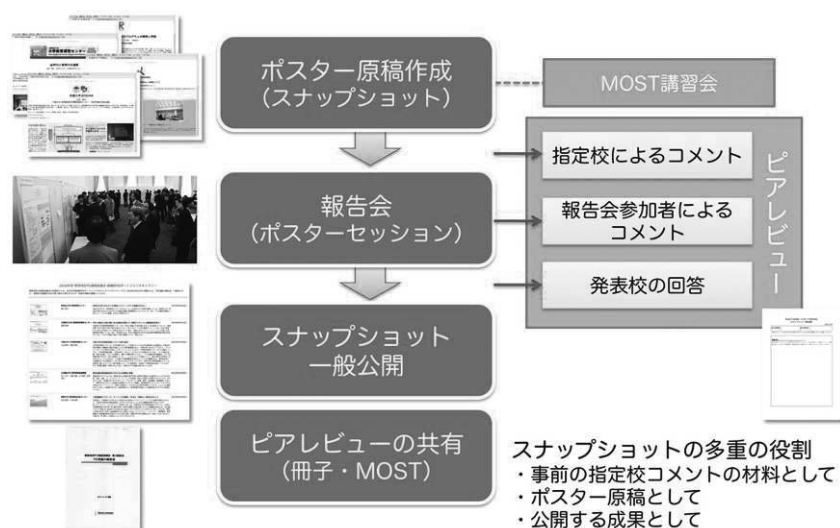


図1 「FD 活動の報告会」のデザイン

関西地区 FD 連絡協議会 第 4 回総会

日 時：2011 年 5 月 21 日（土）13:00～

場 所：京都大学百周年時計台記念館

プログラム

13:00 総会（百周年記念ホール）

14:45 ポスターセッション「FD 活動の報告会 2011」（国際交流ホールⅡ・Ⅲ）

16:00 活動報告（百周年記念ホール）

17:15 情報交換会（国際交流ホールⅡ・Ⅲ）

FD 活動の報告会 2011 関連スケジュール

2010 年

12 月末 ニュースレター5 号発行（発表校の参加受付開始）

2011 年

2 月 25 日（金） 参加受付締切り

3 月 4 日（金） MOST 講習会参加者に MOST アカウント発行

3 月 11 日（水） MOST 講習会

4 月 27 日（水） 幹事校会議（ポスター発表校、ピアレビュー担当校の承認）

5 月 6 日（金） 発表原稿提出締め切り

5 月 9 日（月）～ ピアレビュー担当校に発表原稿、コメントシート記入要領を通知

5 月 21 日（土） 総会「FD 活動の報告会」

6 月 3 日（月） 発表者からの回答コメント締切、冊子化用原稿の修正期限

6 月中旬 MOST 上での共有化、関西 FD の HP からリンク

7 月初旬 冊子を会員校に配布

III-3. FD 情報支援ワーキンググループ

1. 概要

1) FD 情報支援ワーキンググループでは、下記の案内をもとに、関西地区 FD 連絡協議会の参加校に対する FD 情報支援をおこなった。

FD 情報支援 WG からのお知らせ

「講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する相談、情報提供」

担当：勝山貴之（同志社大学）、高橋哲也（大阪府立大学）、溝上慎一（京都大学）

FD 情報支援 WG では、関西地区 FD 連絡協議会・加盟校の FD 活動促進を支援するべく、FD に関する相談、情報提供の窓口を設置しました。FD に関するテーマで講演会・シンポジウム・ワークショップを開催したいが、そのテーマに取り組んでいる講師を紹介してほしい、プログラムの相談に乗ってほしい、などの場合にご利用ください。

この活動の担当は溝上（京都大学）がおこないます。お問い合わせは下記の要領でお願いします。

- ・連絡先：溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター）
メールアドレス（smizok@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp）、
研究室 TEL（075-753-3047）
＊まずはメールでお問い合わせの詳細をお知らせください。折り返し、メールでお返事、ご希望の場合は電話でお返事します。
- ・ご相談の内容によっては少しお時間を頂くこともあります。あらかじめご了承ください。

2) 2011 年度は 2 点の改善をおこなった。1 つは、情報提供に関するルールが厳しいのではないかという WG 内での声を受けて、下記の下線部を修正したことである。

情報提供に関するルール作り（2011 年 4 月 1 日改訂）

- (1) ~~上記の推薦について、関西 FD は責任をもちません。依頼者は上記の情報を参考にして、講師の所属する大学、講師の活動を HP や著書等で簡単にでも調べ、最後の依頼には自己責任をもっておこなってください。~~
- (2) 講演内容、結果についても、関西 FD は責任をもちません。
- (3) 推薦した先生に依頼をされるときに、「関西地区 FD 連絡協議会に相談をした」「候補者の一人としてお名前が挙がった」とお話されるのはかまいません。
- (4) 推薦講師のメール等は個人情報ですので、教えて差し上げられません。依頼に関しては大学の代表電話等を調べてご依頼ください。

もう 1 つは、利用者数の半減を受けて 2011 年 9 月に、あさがお ML のアーカイブのウェブサイトでは検索機能を追加し、情報提供の強化を図ったことである（枠部分）。この検索機能を使用

することで、あるテーマ（FD、学習、初年次教育など）について過去、どの大学でどのような催しが開催されているか、どの講師が招かれているかの情報を得ることができる。

●ASAGAOメーリングリスト投稿一覧●

投稿検索

抽出

検索をリセット

(1～10件/全548件)

← 前のページ

投稿日	お名前	内容
2012/01/13 17:11:34	関西大学教育開発支援センター	●関西大学第6回FDフォーラム「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開 最終成果報告会」開催のお知らせ 関西大学では、 <u>標題のフォーラムを以下の通り開催します。</u>
2012/01/13 16:15:04	朴澤泰男	●2月14日（火）一橋大学・全学FDシンポジウムのご案内 <u>一橋大学 大学教育研究開発センター</u> 2011年...
2012/01/13 16:02:16	Ja Sakai コミュニティ 法政大学 常盤祐司	●第5回 Ja Sakai カンファレンス開催のお知らせ (3/9, 3/10@法政大学, 東京) <u>Ja Sakai コミュニティ (http://www.ja...)</u>
2012/01/12 16:51:00	京都大学高等教育研究開発推進センター	●1月12日あさがお新着 京都大学高等教育研究開発推進センター「あさがお」から

2. 本年度の活動実績

下記の通りで、計6件の支援業務をおこなった。

1	0527-2011	手塚山大学	大学院 FD について
2	0805-2011	兵庫県立大学	授業法について
3	0907-2011	大阪樟蔭女子大学	厳格な成績評価
4	0929-2011	関西看護医療大学	大学におけるハラスメント(アカハラ、パワハラなど)
5	1115-2011	大阪成蹊短大	多様な学生、基礎学力の弱い学生への教育
6	1130-2011	京都女子大学	初年次教育の充実(授業計画・内容、テキストの使用について)

3. 本年度を振り返って

2010 年度に利用者数が半減したことを受けて、本年度は情報提供に関するルールの変更、あさがお ML のアーカイブ上に検索機能を追加し、過去の FD に関する催しの情報検索をおこなえるようにした。2011 年度も半減したままの利用実績であったが、あさがお ML の検索機能など会員校に案内をしながら、引き続き利用の動向について様子を見ていきたい。

(溝上 慎一)

III-4. FD 共同実施ワーキンググループ

FD 共同実施ワーキンググループは、初任者研修共同実施の企画立案運営をはじめ、会員校が共同で実施する活動を行っている。ワーキンググループの構成は、以下の通りである。

大阪大学(常任幹事校)、関西学院大学(幹事校)、京都大学(代表幹事校) (以上 FD 共同実施部)、大阪成蹊短期大学、大阪樟蔭女子大学、関西看護医療大学、畿央大学、京都文教大学、京都文教短期大学、神戸大学、滋賀県立大学、関西外国大学・関西外国語大学短期大学部、立命館大学、和歌山大学(50 音順)

1. 活動目的

2011 年度 FD 共同実施ワーキンググループの活動目的は次の 2 点である。

1. 2009 年度、2010 年度に行われた初任者研修共同実施に向けた議論をもとに、「初任教員向けプログラム」(通称：カンジュニ)を実施すること。
2. 単独では FD 研修会の開催が困難な大学に対して、研修会開催に向けた様々な支援を行うこと。

2. 初任教員向けプログラムとは

「初任教員向けプログラム」とは、現在、関西 FD 加盟校で実施されている研修会のうち「大学の所属に関係なく、大学初任教員であれば参加して効果が見込まれる」ものを公開してもらい、それを関西 FD 認定プログラムとする。そのような関西 FD 認定プログラムを集めた研修マトリックスを作成、周知することによって、各大学の研修会を相互利用できる機会を提供するものである(図 1)。

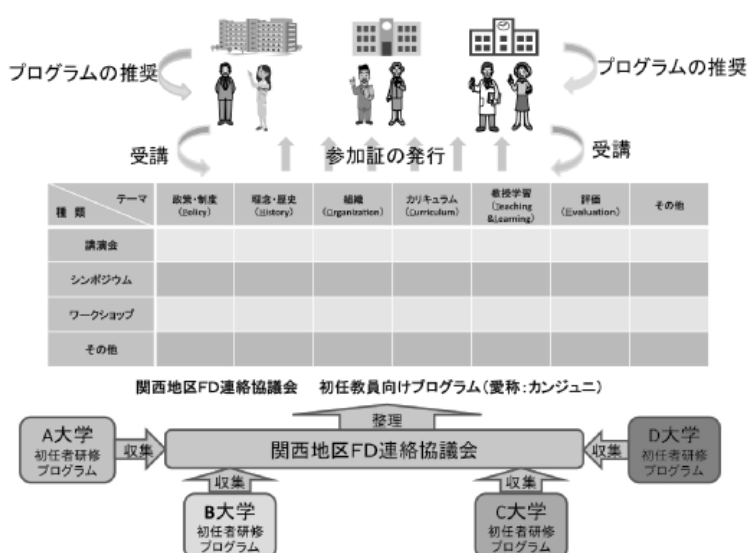


図 1. 初任教員向けプログラムの概略

＜初任教員向けプログラムに参加するメリット＞

- 個々の大学で行われているオリエンテーションやガイダンスと本プログラムを組み合わせることで、充実した初任者研修プログラムを構成することができる。
- 組み合わせは個々の大学の文脈に応じて、「希望者が自由に認定プログラムに参加できるよう促す」、「大学で選択した特定のプログラムへの参加を義務づける」等、様々な対応が可能。
- 時期や地域、研修の内容が様々であるため、自分にとって必要な研修会を選択して参加することができる。
- 本プログラムへの参加者には関西地区 FD 連絡協議会より参加証が発行される。

＜初任教員向けプログラムに研修会を公開するメリット＞

- 研修会への参加者の増加と多様性の確保。
- 自校の取り組みの PR。
- 研修会の検討による、自校の研修プログラムの改善（公開は一部のプログラムのみでも可能）。

3. 2011 年度の活動報告

3-1. 初任教員向けプログラムの実施

2011 年度の初任教員向けプログラムは 10 回(うち、2012 年 1 月現在で 9 回実施済み)であり、のべ 7 校が自校の研修会を公開した。以下に、実施済みのそれぞれの研修会の様子について、関西地区 FD 連絡協議会ホームページに掲載されている各大学からの報告を転記する（一部筆者による修正あり）。

(1) 2011 年 3 月 29 日（火）大阪大学

「対話授業とは何か」 関西 FD からの参加者：5 名

研修会は、大阪大学教授で、劇作家・演出家である平田オリザ教授によってワークショップ形式で進められました。「コミュニケーションデザイン」という視点から、学生参加型・双方向型の授業を行う上で有用な視点を提示するという目的で行われたこの研修では、授業への導入ゲームや企画に全員が参加し、それがコミュニケーションとどのように関係しているかについて実際に体験しました。平田教授から、演劇を含めたコミュニケーションやコミュニケーション・デザインに関する洞察についてお話を頂き、参加した各自が応用できる多様なヒントを得られる内容であったと言えます。

(2) 2011 年 4 月 23 日（土）関西学院大学

「大学の FD をめぐる諸問題」 関西 FD からの参加者：8 名

本研修会は午前・午後の 2 部構成となっており、午前中は関西学院大学新任教員のみを対象とした LMS の活用を目的とした「LMS 導入の目的と今後についての説明」と「LMS の操作講習」について開催し、午後より以下のテーマで講演会を行いました。

テーマ①「大学における授業改善の方策：良い授業を実現するための FD」

講 師：宮本健市郎 関西学院大学教育学部教授

テーマ②「大学のFDをめぐる諸問題」

講師：久保田哲夫 関西学院大学高等教育推進センター長

宮本教授からは、「大学における良い授業とはなにか」ということに焦点を当て、良い授業を実現するための条件や方法について講演いただき、久保田センター長からは多くの大学で課題に挙げられている「大学の多様性とFDに対する意見の対立を超えて全学がFDについて協力体制を構築するにはどうすればよいか」ということに焦点を当てて講演いただきました。

(3) 2011年4月29日（金）滋賀県立大学

「授業の基本」ワークショップ 関西FDからの参加者：18名

この研修会は、新任教員、特に初めて教壇に立つ教員を対象としたものであり、滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生を講師として、以下の3部構成で行われました。

第1講 10：10～12：10 授業の基本①－基本の基本－

第2講 13：10～15：10 授業の基本②－授業展開上の罫－

第3講 15：25～17：45 授業づくりワークショップ

第1講、第2講では、「授業における導入の重要性」「話し方のコツ」「板書のコツ」「教材研究の重要性」「効果的な発問の仕方」などについて、参加者とのやり取りも含めつつ、解説が行われました。たとえば「授業における導入の重要性」では、「単にその日に行う授業内容を冒頭で説明しただけでは導入と言えない」「学生に興味を持たせる必要がある」といった点が強調されました。学生に興味を持たせる方法の一つとして、「効果的な発問の仕方」と関連して、授業の冒頭で学生に発問を行い、学生からの返答を材料にして導入を作っていくという方法が紹介されました。いずれの解説も、講師である倉茂先生がその場で実演しながらの説明であったため、非常に具体的で理解しやすいものであったといえます。また、実演の際には、よい例だけではなく悪い例もとりあげたり、参加者に適宜発問しながら話を進めるなど、様々な方向から大学での授業を考えることができる研修となっていました。

第3講では、グループに分かれて「炒めものの作り方」を題材として5分間の授業を作成、そして模擬授業を行いました。第1講、第2講で学んだことを実際に行ってみるという経験は、参加者にとって非常に重要なものであったといえるでしょう。それぞれの模擬授業の後には倉茂先生からのコメントやアドバイスもあり、充実したワークショップとなりました。

(4) 2011年8月4日（木）京都大学

「若手のための教育実践講座」 関西FDからの参加者：0名

本研修会は、京都大学FD研究検討委員会が主催する「大学院生のための教育実践講座 Advanced コース」を関西地区FD連絡協議会会員校向けに公開したものです。残念ながら関西地区FD連絡協議会からの参加者はありませんでしたが、京都大学の大学院生やオーバードクターなど16名が参加し、模擬公開授業・検討会やその後のディスカッションなどを通じて、大学教育に関する学びを深めました。

(5) 2011年8月8日（月）～10（日）関西学院大学

「大学教員のための講義方法基礎の基礎」 関西FDからの参加者：6名

本研修会は、経験 5 年未満の専任教員・非常勤講師、高等教育機関で講義担当を目指す大学院生、博士研究委員等を対象として、倉茂好匡氏（滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長）を講師に迎え行われたものです。内容は以下のプログラムの通り、講義、ワークショップ、参加者の発表からなり、3 日間で 16 時間 50 分という長時間のものでした。

参加者数は、関西学院大学から 8 名（教員 2 名、研究員 2 名、大学院生 4 名）、関西地区 FD 連絡協議会加盟校からは 6 名（教員 3 名、研究員等 3 名）の合計 14 名でした。

- 8 月 8 日（月） 講義「授業の基本①－基本の基本」
ワークショップ「授業の基本技術を身につけよう」
8 月 9 日（火） 講義「授業の基本②－学生の興味をひきつけよう」
ワークショップ「教材研究」
講義「授業の基本③－視聴覚教材の効果的利用法」
8 月 10 日（水） 講義「授業の基本④－発問と宿題」
グループワーク「授業の完成」
授業発表会

(6) 2011 年 9 月 9 日（金）大阪工業大学

「授業の基本」 関西 FD からの参加者：16 名

本研修会は、滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生をプログラム講師としてお迎えし、新任教員を対象に実施されたものです。プログラム内容は第 1 講から第 3 講で構成され、第 1・2 講は授業の基本に関する講義、第 3 講は教材研究のグループワークが実施されました。

- 第 1 講 10：00～12：00 授業の基本①－基本の基本－
第 2 講 13：00～15：00 授業の基本②－授業で陥りやすい罠－
第 3 講 15：15～17：15 教材研究ワークショップ－グループワークとミニツツレクチャー実技－

参加者は教授、准教授、講師、技師、大学院生といった様々な立場の方々でしたが、皆一様に熱心に受講されていました。授業に関する貴重な研修とご理解いただいていたのだと思います。

第 1・2 講を経て、第 3 講では 6 グループに分かれて教材研究のグループワークを行い、最後に各グループで 5 分のミニ授業を実施し、講師が講評を行いました。同じテーマでミニ授業を行ったのにもかかわらず、6 グループとも全く異なった授業展開となっており、それぞれに授業展開、板書、発問、視線の投げ方に工夫が見られ、教材研究の大切さや授業における教員の個性というものを実感しました。

(7) 2011 年 9 月 13 日（火）大阪大学

「平成 23 年度大阪大学ファカルティ・デベロップメント（FD）研修」 関西 FD からの参加者：5 名

大阪大学豊中キャンパスと吹田キャンパスにおいて、教育指導能力の向上と質の高い教育活動の維持を目的として、大阪大学ファカルティ・ディベロップメント研修が実施されました。この研修は「関西地区 FD 連絡協議会初任教員向けプログラム」の一環として、本協議会の共

催事業となっています。

本研修では、13日には金子元久 国立大学財務・経営センター教授を講師に招き「大学教育の転換」、また16日には荻上紘一 大学評価・学位授与機構特任教授を講師に招き「大阪大学における教育の更なる改善のために」と題して、それぞれの講演が行われました。各講演後の質疑応答では、参加者から活発な質問がなされました。また、今年度も参加者のニーズに応えられるよう、研修の後半では、研修A「TA制度の現状とあり方」、「教育の国際化」、研修Bでは「魅力的な授業づくりのポイント（模擬授業）」、研修Cでは「社会人院生の集め方、育て方、送り出し方」というテーマを題材にした3つの分科会形式の講義を行い、より専門性を深めた研修内容となりました。

(8) 2011年11月12日（土）立命館大学

「立命館大学ワークショップ」 関西FDからの参加者：3名

このワークショップは、立命館大学所属の専任歴3年未満の新任教員を主な対象として実施している、大学教員に求められる教育力量と職能の育成を目的とした「実践的FDプログラム」の一部です。今回は、関西地区FD連絡協議会の「初任教員向けプログラム」の一環として協議会加盟校へも公開しました。

【スケジュール】

①13：00～14：30 「心理学演習Ⅱ」

テーマ：「受容的に聴く力（イヌ・バラ法）」

講師：鳥居朋子 教育開発推進機構教授

②14：40～16：10 「心理学演習Ⅲ」

テーマ：「アサーション・トレーニング」

講師：林泰子 教育開発推進機構講師

「心理学演習Ⅱ」では、学生が教員に受容されていると感じて本音を語ることができる、聴き方や態度についての演習を行いました。続いて「心理学演習Ⅲ」では、授業内外で起こりうる学生への対応場面を「対応する教員の立場」・「対応される学生の立場」に立って演じ、ロールプレイを通して自分自身の対応の特徴を振り返りながら、学生の意見や気持ちを考慮しつつ適切に指示や指導する方法について考えました。

(9) 2011年12月10日（金）大阪樟蔭女子大学

「どうする、どうやる成績評価」 関西FDからの参加者：4名

本研修会は、以下のプログラムの通り、事例報告、ミニレクチャー、参加者によるグループワークからなるものでした。

◆プログラム

10：30 開会挨拶

10：40 事例報告 全学共通初年次教育科目「アカデミック・スキルズ」における成績評価
大阪樟蔭女子大学 教育開発機構長 有田節子

10：55 ミニレクチャー「成績評価の方法と課題」

～京都FD開発推進センター『まんがFDハンドブック【成績評価編】』作成を通じて～

(講師) 京都精華大学 人文学部教授・共通教育センター長 高橋伸一

11:15 グループワーク「成績評価について考える」

ファシリテーター 京都大学高等教育研究開発推進センター助教 半澤礼之

12:10 まとめと講師コメント

12:25 閉会挨拶

事例報告では、本学の有田節子教育開発機構長より、全学共通初年次教育科目として設置した「アカデミック・スキルズ」について、授業運営及び成績評価の現状と課題が報告されました。また、ミニレクチャーでは、高橋伸一氏（京都精華大学人文学部）より、「成績評価の方法と課題」をテーマに、『まんが FD ハンドブック【新任教員編】と【成績評価編】』作成の背景や成績評価の方法と課題について講演していただきました。グループワークでは、参加者を4つのグループに分け、半澤礼之氏（京都大学高等教育研究開発推進センター）をファシリテーターに、持参した各自のシラバスを元に成績評価に関わるノウハウや悩みについて情報交換したり、成績評価の実際について話し合いました。

本学では今後も継続的にこのような研修会を企画・実施し、教員間の情報交換を通しながら、協働的な教育改善・FDを推進していきたいと考えています。

3-2. 新任教員向けプログラムに対する参加者の評価

新任教員向けプログラムに参加した、関西地区 FD 連絡協議会加盟校の教員・職員・学生に対して、事後アンケートを実施した。実施は(6)「大学教員のための講義方法基礎の基礎」から(9)「どうする、どうやる成績評価」の4回の研修会で行われ、合計33名がアンケートに回答した。以下に、アンケートの回答を示す(欠損値あり)。質問4~8については、自由記述によるアンケートであったため、回答を内容ごとに整理し、それぞれの内容について記述例を紹介する。

質問1. あなたはどのような立場で今回の研修会に参加しましたか。

- 新任教員として：13名
- 学内のFD担当委員として：4名
- 新任教員ではないが研修会に関心を持って：9名
- 事務職員として：1名
- その他：1名（次年度より講義を担当する可能性があったため）

質問2. あなたは今回の研修会のことをどのようにして知りましたか（複数回答可）

- 学内のビラ・ポスターから：3名
- 関西FDのHPから：6名
- FD業務を担当する教職員から：15名
- その他の教職員から：3名
- 関西FDからのEメールによる案内で：5名
- その他：3名（関西FDの懇親会で：1名、その他2名は未記入）

質問3. あなたは今回の研修会に参加したきっかけは何ですか（複数回答可）

- 大学から参加するよう指示があったから：4名

- FD 担当委員の業務として参加する必要があったから：3 名
- 自分の教育能力を高めたかったから：19 名
- 大学教育を考える機会が欲しかったから：11 名
- 実際に教育を行う上で悩んだり困ったりしたことがあるから：11 名
- 研修会の内容そのものに興味をもったから：14 名
- 他大学の研修会に参加してみたかったから：3 名
- その他：2 名（プレ FD 企画を立てるうえでの参考にするため：1 名、今年 4 月 23 日に行われた関西学院大学での FD 研修会に参加し、あまりにもショックを受け、今回に期待しました：1 名）

質問 4. 今回の研修会で参考になった点をお書きください（自由記述）

【授業スキルについて】

回答例

- 授業のやり方について、良い例、悪い例を実際に演じて見せてくださったことで、自分の授業をどう改善していけばよいかイメージしやすかったです。また、板書をした後の立ち位置などについても、勉強になりました。
- 板書の仕方、授業の進め方、教材研究の仕方、声の出し方等について説明が具体的で非常に参考になりました。いろいろな先生方の授業の一端をみることができ、そこから多くのヒントを得ることができたことも（想定外の）収穫でした。

【他教員との交流について】

回答例

- 他大学の先生方と、楽しく受講でき、また授業を進める上で、たいへん参考になるものをご教示賜り、有り難く存じております。
- 他大学の教員の方との意見交換で、悩みや工夫点を共有できたこと。

【高等教育の現状について】

回答例

- まず、日本の大学教育というものの現状を知る機会になったことがとても良かったです。23 年ほどイギリスに住んでおりましたので、イギリスの大学教員との類似点、相違点の両方が分かったように思います。
- 全体講演のお話で、アメリカの教育成果を主体にした教育についての考え方、カリキュラム作り、また教員の時間の使い方が、昨今の教育成果や質保証の議論を理解するうえで参考になりました。

質問 5. 今回の研修会で改善したほうがよい点をお書きください（自由記述）

【時間配分について】

回答例

- 全体としてとても満足しています。ただ、先生に質問できる時間が限られていたのが少しだけ残念でした。時間があれば、学生の答えにうまく反応する（雰囲気や和ませる・安心感を与える・題材に興味を持たせるなどの）スキルを伸ばすためには、何を心がけたらいいのかなど、聞いてみたいと思いました。
- コンパクトでよかったのですが、もう 30 分ほど時間があってもよかったと思います。グループワークの前に、前半のご報告に対する質疑応答の時間があってもよいかと思いました。

【参加者に関する情報について】

回答例

- グループワークでは、自己紹介をする時間もとれずに、一緒にグループの方たちがどのようなバックグラウンドをお持ちなのかを知る機会がなかったのが残念でした。
- お互いの立場がどのような方かわからなかったので少し話しづらかった。

【参加条件について】

回答例

- 「新任教員」とするのではなく、むしろ長年大学で教鞭をとっている先生こそ受講していただきたい。
- 特にありません。参加の縛りが、「教歴 10 年未満」であれば、30 名集まったかもしれません。「スキルアップしたい方によりオープンに」という意味です。

質問 6. 今回の研修会全体の感想についてお書きください（自由記述）

【有意義であった】

回答例

- 大変有意義な研修会で、3 日間があつという間でした。ワークショップ全体の雰囲気がよく、他大学の先生方とも交流ができたのも良かったです。
- 非常に有意義な研修会であったと思う。時間的にはコンパクトながら実のある研修となっており、参加しやすくかつ得るものがあった内容でした。

【参加者が熱心であった】

回答例

- もう少し参加者が多ければもっと様々な意見や考え方を知ることができたように思う。しかし、参加者が積極的に参加し、活気のある研修会でよかったと思う。
- 参加している先生方は皆さんが熱心で、どの大学でも問題点は共通なのだなと感じた。

質問 7. 今回のような他大学の研修会を受講できる制度について、ご意見・ご感想があればお書きください（自由記述）

【有意義な制度】

回答例

- 研修の機会が増えるため、ぜひ継続してほしい。
- 他大学の先生方の授業の様子を見る機会ができて大変有難かったです。ご準備が大変だと思いますが、これからもぜひこういった機会を設けていただきたいと思います。

【他大学の教員と交流することのメリット】

(回答例)

- 同じ大学ですと、変なプライドが邪魔して「教える悩み・授業の進め方」等を語り合うことについても本音がなかなか出てこないようなところがあります。一方、見も知らぬ他大学の先生とはバックグラウンドも違うこともあり意外とオープンに話ができるのではないのでしょうか？こういう機会は、是非たくさん作っていただきますようお願いいたします。
- 同じ大学の先生同士よりも、気軽に講義内容のことなど話せるのではないのでしょうか？（同じ学内だと、お互いに遠慮&警戒してしまっていて言いにくいものと思われるので。）

【独力で研修会を実施することが困難な大学に対する支援として有効】

回答例

- ・ 私自身が所属する短期大学のように新任教員が少ない大学では、このような研修を自校で開催することが難しいため、今回のような取り組みは、非常によいものだと思う。
- ・ 規模の小さな大学では、FD 活動が不十分なので、外部の研修会に参加させて頂けると非常に助かります。

質問 8. この質問は FD 担当委員として参加された方のみにお聞きします。自校の研修会を企画する上で、今回の研修会に参加して参考になった点・参考にはならなかった点をそれぞれお書きください（自由記述）

*回答が少数であったため、全ての記述を以下に紹介する

- ・ 具体的な教育スキルを身につけるためのセミナーでは、どのような項目を取り上げればよいかの参考になりました。
- ・ （参考になった点）・外部講師の招へいと模擬授業の組み合わせで、バランスのとれた研修会となっていた点。
- ・ （参考になった点）繰り返しになりますが、研修の意義は、それほど説明を尽くさなくても各先生が自分なりに汲んでくれるようになることです。ただし、これに至るまで「何か」があるのだと思います。（参考にならなかった点）特にないのですが、自校の仕事の仕方が影響することもあるのかな、とは思いますが。普段、トップダウンが多い大学だから、ピアワークが受け入れられやすくなるというのがあるのかもしれませんが、逆に、民主的だと研修タイプが受け入れられやすくなるのかもしれませんがね。
- ・ 外部に開かれた研修会はこれまで実施実績がありませんでしたので、実施方法等について参考になりました。
- ・ 自校は小規模な大学のため初任教員がいない、もしくは1名のみという年度もありますので、初任教員向け研修という企画では実施が難しく、他の観点からの企画なら可能かと思っています。

3-3. FD 研修会の開催支援

共同実施 WG の活動目的の一つとして、「単独では FD 研修会の開催が困難な大学に対して、研修会開催に向けた様々な支援を行うこと」があげられる。2011 年度は共同実施 WG のメンバーでもある大阪樟蔭女子大学より依頼を受け、成績評価に関わる研修会の開催支援を行った（プログラムなどは 3-1.初任教員向けプログラムの実施（9）大阪樟蔭女子大学を参照のこと）。具体的な支援として行ったのは、1) プログラムの作成、2) 講師の紹介、3) グループワークのファシリテーターの派遣の3点である。以下に示すように研修会に対する肯定的な評価が多かったことから、開催支援は成功したと考えることができるだろう。

<研修会の感想>

- ・ 評価に関して、多くの先生方とお話できたことが収穫。悩んでいるのは自分だけではないことを確認したと共に、情報の共有の必要性も感じました。
- ・ ユニバーサル・アクセス時代の大学教育の評価については継続的に研究して行きたい。
- ・ アカデミック・スキルズに関する有田先生のお話はとてもよかったです。アカデミック・スキルズの授業が導入される背景やねらい今後の議題についてなるほどと納得しながら聴く事ができました。また、グループワークでは他の先生方が苦勞・工夫されている事項を伺う機会があり今後の授業づくりを考える際の参考になりました。

- 成績評価の悩み所が、自分だけでなく共有できるものだったと分かり、心強かった。「厳格な評価」の意味が、点数を辛くすること（学習内容をレベルアップすること）と、厳正に公平に評価するという意味とが混在したままだった点を、もっと議論したかった。
- グループワークを通して、専門が異なる本学及び他大学の教員とともに成績評価における悩みを話し合い、具体的に成績評価を厳格に行うための様々な工夫を自分自身に生かしたいと思った。
- 私自身は成績評価に困っていなかったのですが、どのような点に困ることがあるのかを知る良い機会となりました。
- 成績評価について、多様な意見を聞くことができ有意義であった。ただ、意見を出し合ってもなかなか解決できないテーマについては、指定討論者等より一定の回答の得られる場面があるとなお良かったように思う。
- 他の先生方とお話をする機会が持てて良かったです。グループワークも盛り上がっていて勉強になりました。

4. 2012 年度にむけて

2011 年度より開始した初任教員向けプログラムは、概ね好意的な評価を得ることができた（3-2 参照）。2012 年度は、初任教員向けプログラムのよりいっそうの充実を図り、関西地区 FD 連絡協議会加盟校に幅広い研修の場を提供すること、そして、FD 研修会開催の支援を継続して行っていくことが重要となる。そのためにも、FD 共同実施 WG の活動の幅広い周知を行う必要があるだろう。

（田口 真奈、半澤 礼之）



Program for Junior Faculty

大学で授業をすることが好きなアナタも嫌いなアナタも

参加するメリット
公開するメリット
カンジュニって？
は裏面に..

2010 年度に 公開された各大学の 研修会概要

3.25 大阪大学

平田オリザ先生を講師とした
コミュニケーション・ワークショップ。

4.2 滋賀県立大学

まずは授業の基本から。
授業中の話し方、立ち方、授業の構成…。

5.7 滋賀県立大学

授業の双方向性の基本について。
机間巡視、演習的要素、確認的発問、
学生の反応の見極め方。

5.15 関西学院大学

イマドキの大学生—学生生活調査、
成績評価、LMS について。

6.4 滋賀県立大学

視聴覚教材やパワーポイント使用時の基本。
良い教材って…？。

6.19 関西学院大学

多人数講義、障がいのある学生の修学支援、
愛媛大学佐藤先生による
グループ学習を成功させるコツ。

7.9 滋賀県立大学

発問と指導、発問の種類と効果、
発問の「ねらい」について。

7.30 滋賀県立大学

宿題の種類と効果、宿題の位置づけ、
添削指導の効果、評価の記録。

8.5 京都大学

大学院生を対象としたプレ FD。
授業デザインリフレクションシートの
活用とディスカッション。

共通教育ワークショップ

「対話授業とは何か」

2011.3.29 [火]

場所

大阪大学大学教育実践センター教育研究棟 I・2 階
スチューデント・コモンズ 2 階セミナー室 I

申し込み先

k-office@cep.osaka-u.ac.jp

備考

申し込み先に、「初任者研修参加希望」で「氏名、所属大学、メールアドレス、電話番号」を書いて
申し込んでください。締め切りは、3 月 18 日（金）とします。

学生参加型、双方向型の授業の導入が叫ばれて久しい。しかし、実際の運用には様々な障壁がある。今回の講座では、劇作家・演出家であり、本学コミュニケーションデザインセンター教授の平田オリザ教授によるワークショップの体験を通じて、授業展開に役立つスキルを紹介していく。また講演では、「コミュニケーションデザイン」という新しい視点を踏まえて、単なる双方向型授業を超えた「対話型授業」の本質について解説する。



©T.Aoki

大阪大学

若手のための教育実践講座

「授業を見て授業を語る」

2011.8.4 [木]

場所

京都大学百周年時計台記念館

申し込み先

reino.h@hy4.ecs.kyoto-ac.jp

（京都大学 高等教育研究開発推進センター 半澤）

備考

- ・本プログラムは、本来大学院生、PD や研修員等を対象としたものです。従って、教育歴が 1 年未満の初任者の先生方のみを募集いたします。
- ・プログラムの構成上、参加は先着 10 名までとさせていただきます。

本プログラムは、将来、大学教育に携わりたいことを希望している京都大学の大学院生（PD、研修員などを含む）のために、ファカルティ（大学教員）へと自己形成していくきっかけとなる場を提供するものです。今回公開するコースは、既に大学等で非常勤経験のある方向けのプログラムとなっており、模擬授業とその検討会といったマイクロティーチングや、教育場面における様々な問題を議論するグループディスカッションといった実践的な内容を中心としたものとなっております。従って、大学教員に初めてなった初任者の方々にとっても有意義なプログラムであるということが出来ます。

京都大学

「大学の FD をめぐる諸問題」

2011.4.23 [土] 13:30~15:30

新任者研修

「授業の基本ワークショップ」

2011.4.29 [金]

<http://www.kansai-fd.org/>

関西学院大学

滋賀県立大学

詳細は
HP にて

関西地区FD連絡協議会

初任教員向けプログラム

カンジュニ...とは？



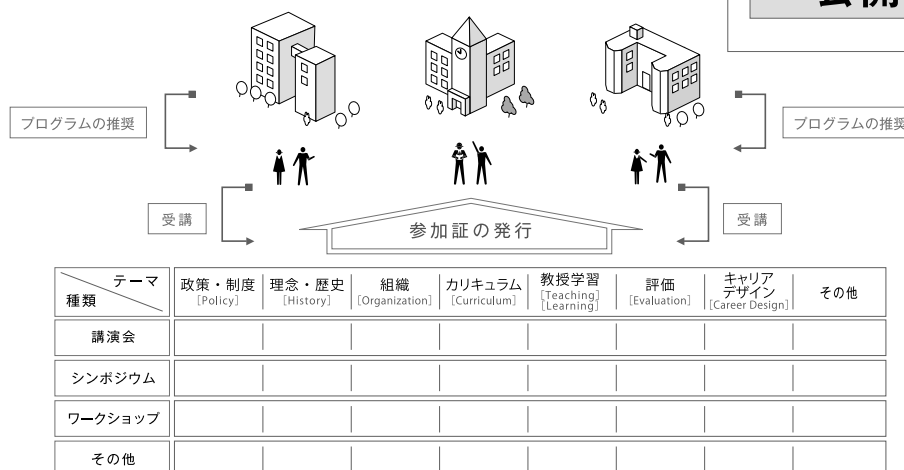
カンジュニ
Program for Junior Faculty

参加するメリット

初任教育向けプログラム(カンジュニ)+自校教育・ガイダンス=充実した初任者研修!!

- 初任教員向けプログラムとは、様々な大学で行われている「大学の所属に関係なく、大学初任教員であれば参加して効果の見込まれる」研修会を関西地区FD連絡協議会認定プログラムとして公開し、相互利用を可能にしたものです。
- 本プログラムへの参加者には関西地区FD連絡協議会より参加証を発行します。
- 時期や地域、研修の内容が様々であるため、自分にとって必要な研修会选择して参加することができます。

公開するメリット



- 研修会への参加者の増加と多様性の確保
- 自校の取り組みのPR
- 研修会の検討による、自校の研修プログラムの改善

関西地区FD連絡協議会では、この初任教員向けプログラムに自校の研修会を公開して頂ける大学を募集しています。公開されたプログラムは、関西FD認定プログラムとして左の研修マトリックスに位置づけられます。詳細は、下記関西地区FD連絡協議会webでご確認ください。

関西地区FD連絡協議会 初任教員向けプログラム



各大学の
研修会概要は表面に...

共通教育ワークショップ
「対話授業とは何か」
2011.3.29 [火]

<http://www.kansai-fd.org/>



関西地区FD連絡協議会
Kansai Faculty Development Association

III-5. FD 連携企画ワーキンググループ

FD 連携企画部と FD 連携企画ワーキンググループ (WG) は、2012 年 3 月現在、以下の大学で構成されている (敬称略)。

◆FD 連携企画部

- ・立命館大学 (安岡高志)・・・責任校
- ・関西大学 (田中俊也)
- ・神戸常盤大学 (松田光信)　＊関西 FD パイロット校
- ・京都大学 (松下佳代、田川千尋、高橋雄介)・・・事務局

◆FD 連携企画 WG

上記の FD 連携企画部、および以下の 4 校を含む計 8 校

- ・藍野大学医療保健学部理学療法学科 (平山朋子)　＊関西 FD パイロット校
- ・京都ノートルダム女子大学人間文化学部英語英文学科 (須川いずみ)　＊関西 FD パイロット校
- ・京都精華大学 (高橋伸一)　＊2011 年度新規加入
- ・大阪府立大学 (新井隆景)　＊関西 FD パイロット校／2011 年度新規加入

1. 活動内容

(a) 目的と特色

FD 連携企画 WG の目的は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ (問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など) を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントを実施するのではなく、継続的に情報交換しながら、実質的な教育改善・FD を進めるための緩やかなコミュニティを形成することをめざしている。

FD 連携企画 WG には、ニーズの高いテーマに関連して自校の FD に取り組む会員校を「関西 FD パイロット校」として支援するという特色がある。2012 年 3 月現在、神戸常盤大学、藍野大学、京都ノートルダム女子大学、大阪府立大学の 4 校が関西 FD パイロット校となっている。

(b) 活動計画

FD 連携企画 WG では、以下のようなプロセスで活動を展開している。

- ①特定のテーマについてシンポジウムを開催する。
- ②シンポジウム参加校・参加者を中心にグループを形成する。
- ③先進校の取組事例の学習や自校での試行を WG が支援する。
- ④関西 FD のホームページ・ニュースレターや大学教育研究フォーラム等で活動報告を行う。
- ⑤毎年、①～④を繰り返しながら、連携を拡大・進化させる。

2. 2011 年度の活動報告

2011 年 12 月 17 日 (土) に立命館大学衣笠キャンパスにおいて、第 8 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント「ワークショップ: 思考し表現する学生を育てる IV—ライティング指導の方法—」を開催した。本活動は、昨年度より好評を博している形式—講演とワークショップ—

で行われた。以下にワークショップのプログラム、当日の状況、アンケート結果を報告する。

◆プログラム

13:00～13:10 開会あいさつ

田中 毎実（関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校代表・
京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

13:10～14:10 講演

「『モジュール』に基づいたレポート、小論文の作成技法について」
小田中 章浩（大阪市立大学文学研究科教授）

14:10～14:40 事例紹介

「立命館大学における初年次日本語リテラシー科目の取組」
薄井 道正（立命館守山中学校・高等学校教諭／
立命館大学非常勤講師）

15:00～16:30 テーマ別グループワーク

16:40～18:00 全体討論

◆当日の様子

参加者は会員校から 40 名、非会員校から 9 名の計 49 名であった。例年のことであるが、今年も東京や宮崎など遠方からの参加者が少なからずあり、本テーマへの関心の深さがうかがわれた。サブタイトルを「ライティング指導の方法」とした今年は、日頃指導に関わる参加者たちが実践において抱える問題意識を持ち寄り熱心に参加する姿が見られた。

◇第 I 部

①講演（小田中章浩氏）

第 I 部では、田中俊也氏（関西大学、本 WG）による司会のもと、講演と事例紹介が行われた。大阪市立大学の小田中章浩教授による講演では、小田中氏がフランス留学をした際に学んだフランス流文章作成法である *dissertation* に必要な技法を、日本語の文脈に置き換えつつ開発したという文章作成方法について、前任校である岡山理科大学で担当していた「文章表現法」、および現任校での初年次セミナーや卒論指導における指導実践が紹介された。

これらの授業では論理的文章を作成するために必要な考え方を学生が学ぶことが目的とされている。小田中氏は論理的であることとそれを文章化することの間にある問題を思考パターンの問題であるとして、文章の設計図を考えそれを文章化するプロセスを教えている。文章構造を学ぶことで、学生はただのエッセイではなく学術的なアプローチを持った小論文を書くことができるようになる。具体的には、学生は例として提示される文章の構造を分析し（モジュール化）、要約の練習を行う。この過程では文章構造において重要な接続詞についての理解と用法が強調され、論理的文章の作成技術が習得されていく。こうした作業を前提として、小論文作成に取り組む。そこでは対比的な視点を導入することによって文章に論理的一貫性と



明確さを持たせることを意識した指導がなされる。また、こうしたモジュール化の手法は、アカデミック・ライティングだけでなく、学生が今後直面するであろう社会生活の諸相においても応用可能であることが、おわびの手紙などを例にとって述べられた。例としてとりあげられている文章も厳選されており、論理的文章とは何かということが自然と理解されるような流れで教えられるこの指導法は、非常に興味深いものであった。

②事例紹介（薄井道正氏）

続いて、立命館守山中学校・高等学校教諭であり、2年前から立命館大学でも非常勤講師として教鞭をとっておられる薄井道正氏によって、立命館大学における特殊講義「学びのとびら・入門」（初年次日本語リテラシー科目）における取り組みが紹介された。「学びのとびら・入門」は、学生が読むこと・書くこと・考えることについて理解し、トータルとしての学ぶための技法を学ぶ講義である。高校までの学びとは異なる、大学における学び、すなわち新たな知をもたらすことのできるような（研究に近い）学びの仕方について、（1）学びのための基本スキル（ノートテイキングや情報収集の方法など）、（2）ロジカル・ライティングとパラグラフ・ライティング、（3）批判的思考とデータに基づいた思考という3つの観点から説明があった。（2）のライティングに関するスキルについては、伝わる文章を書く際には、伝えるべき相手がいて、それが誰なのか、そしてその相手が理解しやすい文章を書くことの意識付けが強調され、（3）については、ひとつの情報に依拠することなく、その情報の裏付け（論拠）はどこにあるのかを批判的に考えることの重要性について詳細な説明があった。具体例を豊富に織り交ぜながら紹介された氏の事例紹介は、文章がどのような要素・表現を持てば相手に伝わりやすいものになるのかを分かりやすく報告したものであり、参加者にとって大変有意義であった。



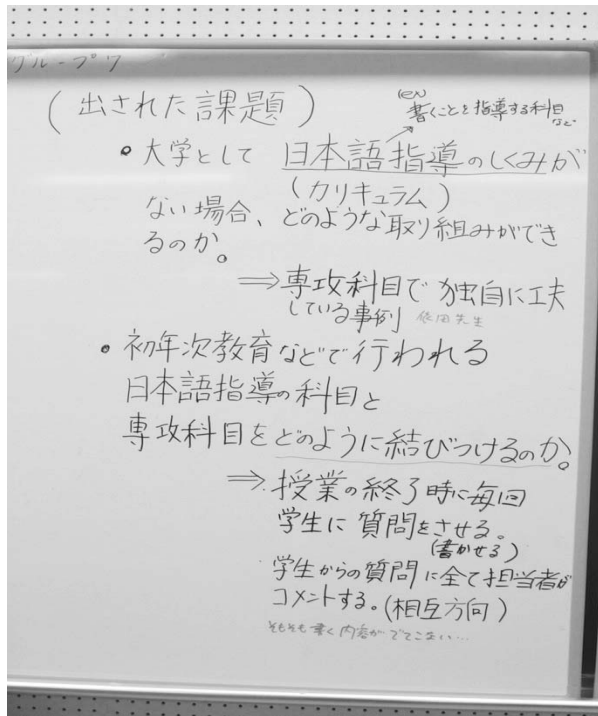
質疑応答では、2人の講演者に活発な質問が投げかけられた。

◇第Ⅱ部：テーマ別グループワーク

田川（京都大学、本WG）によってグループワークの進め方についての説明がなされた後、第Ⅱ部に入った。第Ⅱ部では、今年度初の試みとして、テーマ別にグループワークが



行われた。テーマは、①論文指導、②作文法、③コピペ対策、の三つが設けられ、グループワ



ークに先立ちそれぞれのテーマについて講師よりミニレクチャーが行われた(①論文指導「十字モデルで協同的に論文を考える」牧野由香里 関西大学総合情報学部教授、②作文法「科学的作文法入門」倉茂好匡 滋賀県立大学環境科学部教授、③コピー対策「阪南大学コピー検索システム」花川典子 阪南大学経営情報学部教授)。参加者は希望するテーマごとに3つの教室に計10グループに分かれ、グループワークを行った。グループワークでは、持参した資料にもとづいて各自が自身の実践を紹介し、それをグループで共有し議論した。また、議論した結果を90cm×120cmのポータブルホワイトボードにまとめてもらった。興味のあるテーマ別にグループ分けをしたことにより、グループ内でよりスムーズかつ活発な議論ができたようであった。

◇第Ⅲ部：全体討論

第Ⅲ部の全体討論においては、安岡高志氏(立命館大学、本WG)による司会のもと、各グループで議論した論点がホワイトボードを用いながら報告され、これをふまえ参加者全員による全体討論がおこなわれた。10グループから出された論点は、全体のテーマである「ライティングの指導方法」とミニレクチャーのテーマとがあわさった中で出てきたものであった。主なものとしては、いかに論理的思考と書くことをつなげて指導するか、何を教えるべきか、専門が多岐にわたる学生にどのように指導をするのか、初年次教育における日本語科目と専攻科目とをどうつなげていくのか、評価をどう行うのか、コピー問題を根本的に解決するにはどうしたよいのか、などであった。

討論では、とりわけ一回生の指導について、初年次教育で行う場合に専門が異なる学部学科が共通で行うことができるのか、という点が取り上げられた。何を書くことを教えるのか―「WhatとHow」という問い―は例年必ず話題に上がる論点であり、多くの教員が日頃から抱える疑問点である。今年はまだ、テーマ別グループワークにあったコピーについても活発な議論がなされた。具体的には、コピーを検出する以前にすべきこととして、学生にどのように倫理観を教えるのかについては、著作権・人権という話の中で他人の権利として教えているという事例が紹介された。また、これらすべての点について、教える側をどう組織するか、また評価基準をどう作成し共有していくか、という点も話題に上がった。

最後に、司会の安岡氏より締めくくりとして議論の整理とコメントが行われた。本日の議論を通して浮かび上がったライティング指導のポイントとして、安岡氏は以下の三点をあげた。すなわち、①どんなトピックを、誰にむけて書くのが重要であること、②指導方法がどうあるべきかについては、採点・添削を通した教員同士のコミュニケーションが必要であること、③採点・ルーブリックはどのように作成するべきなのかという課題があること、である。これらの論点は、来年度以降のWGの活動に活かしていきたい。

◆事後アンケート結果

ワークショップ終了後、「ワークショップ全体への参加満足度」「プログラムの有意義度（講演、事例紹介、テーマ別グループワーク、ミニレクチャー①・②・③）」について5件法（1：まったく満足していない／有意義ではなかった～5：非常に満足している・有意義だった）によりたずねたところ、それぞれの評定平均は4.4、4.3、4.4、4.2、4.3、4.7、4.7だった（回答者は順に44名、45名、45名、43名、17名、16名、7名）。全体的に参加者の満足度は高く、各プログラムの内容も有意義であったとの評価が得られた。

ワークショップに満足した理由をたずねたところ、「他大学の状況がわかったこと」「他の先生の取り組みや工夫を知る事ができたこと」「授業に使える具体的なアイディアを得ることができたこと」「役に立つ今後につながる議論ができたこと」などがあげられた。さらに、ワークショップ参加による最大の収穫についてもたずねたところ、「各大学での具体的な取り組みをもとに議論を深めることができたこと」「情報の共有」「具体的な教授方法のアイディアが得られたこと」「文章指導の具体的なイメージを得られたこと」「多くの事例の収集と今後の本学における開発」など、共有することへの評価が高く、それが今後に役立って行くだろうという記述が多く見られた。

最後に、「今後に向けて改善したほうがいいと思われる点」をたずねたところ、グループワークに関する意見がいくつか寄せられた。とりわけ時間がタイトであったこと、全体の配分の中でももう少しグループワークの時間を増やせないかということ、などタイムスケジュールに関する指摘が多く見られた。また、実践で指導対象としている学生に違いがあることから、例えば留学生への日本語教育、レポート指導、などというようにグループワーク分けを実践の内容や対象によって行えないかという意見もあった。持参する資料について詳細な指示がほしいという意見やあらかじめ課題を示しそれに従って実践例を整理してくるのはどうかなど、時間の制限がある中で効果的に行うための提案も見られた。

◆今後の計画

ワークショップで参加者に持参していただいた資料のうち、許可をいただいたものについては、スキャンし、整理・分類した上で、協議会のウェブサイトアップしている。

(http://www.kansai-fd.org/publications/resource/shiryo_20111217.html)

4年間にわたる開催をふまえ、来年度も同じテーマでワークショップを継続するかどうかについては、現在、WG内で検討中である。この成果を出版物などで形にしていくこともWGでは検討している。また、事後アンケートでは、複数の参加者から、本WGへの参加希望と関西FDパイロット校への参加希望が寄せられたが、これについても、今後のテーマや活動内容との関係をみながらWGで議論をおこなっているところである。

本WGメンバーには、全体会での司会、グループワークのファシリテーターとして活動していただいた。皆様に感謝の言葉を申し上げます。

（田川 千尋、松下 佳代、高橋 雄介、坂本 尚志）

III-6. 広報ワーキンググループ

1. はじめに

広報ワーキンググループ（WG）は、協議会に関する広報業務を担当している。2011 年度初めに大阪市立大学と和歌山大学のメンバーの交替があった。広報部は以下のメンバーで構成されており、2012 年 3 月現在、広報部と広報 WG のメンバーは一致している。

広報部・広報 WG（敬称略）

大久保敦（大阪市立大学：責任校）

伊東千尋（和歌山大学）

酒井博之、高橋雄介（8 月～）、藤本夕衣（～8 月）、笹尾真剛（京都大学：連絡担当）

2. 活動報告

2011 年度の広報 WG における活動報告を以下におこなう。今年度は、ニュースレター6号・7号の発行、ホームページおよびメーリングリストの維持・管理、「FD 活動の報告会」に関する広報関連業務を行った。

2-1. ニュースレターの発行

本年度のニュースレターは、第 6 号（7 月、編集責任者：大久保敦）と第 7 号（2 月、編集責任者：大久保敦）の 2 号を発行した（図 1）（ただし、本稿執筆時点で第 7 号は未発行）。昨年度までと同様、800 部印刷し全会員校宛に送付した。非会員校についても入会を促すため各号 1 部を送付した。また、ニュースレターの PDF 版を本協議会ウェブサイトへ掲載し一般公開した。

本ニュースレターでは、これまでに協議会が企画・実施したイベント等の活動報告や、各 WG からのお知らせのほか、会員校間の FD 活動について情報共有を促進するため、個別の会員校における FD の取り組み紹介を充実させてきた。第 6 号（タイトル：「学び合うネットワークに向けて」）では、第 4 回総会、本協議会主催イベントの報告に加え、和歌山信愛女子短期大学、大阪工業大学、滋賀県立大学、関西大学、龍谷大学より活動報告がなされた。また、総会と同日に開催された「FD 活動の報告会 2011」についての報告もなされた。

2-2. ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

本協議会のウェブサイト（<http://www.kansai-fd.org>）の維持・管理を随時おこなった（図 2）。本年度は、特段の改修をおこなわなかった。昨年度設置した、ツイッターハッシュタグ（#kansai_fd）を引き続き活用した。本サイトは、月平均 2,408 件（2011 年 4 月～12 月。ユニークユーザー数では 434.5 件／月）のアクセスがあった。このほか、幹事校や各ワーキンググループおよび研究サブグループにおける連絡用、全会員校向けの案内用のメーリングリストを適宜作成、更新、管理した。



図1 関西地区FD連絡協議会ニュースレター 第6号
(※本稿執筆時点で第7号は未発行)



図2 関西地区FD連絡協議会 ウェブサイト

2-3. 「FD活動の報告会」関連業務

2011 年 5 月の総会で開催した「FD 活動の報告会 2011」（III-2 参照）に関する広報業務をおこなった。「FD 活動の報告会 2011」報告書として、発表校のポスター原稿と会員校間ピアレビューを冊子化し、ニュースレター6 号とともに会員校に 5 部ずつ配布した。なお、本報告書は、ピアレビューにおける会員校教職員間のコメントのやり取りを含むため、慎重を期して会員校の教職員のみ閲覧可能としている。また、12 校の発表原稿一覧を、本協議会ウェブサイト上で一般に公開した。

2-4. MOST 講習会の共催について

2012 年度総会において予定されている「FD 活動報告会 2012」におけるポスターセッションの発表原稿の作成と会員校間での蓄積、共有をおこなうため、京都大学で構築したオンライン FD 支援システム「MOST」（<https://online-tl.org>）内で原稿を作成することが推奨されている。MOST 利用のための講習会が 2012 年 3 月 2 日（金）に開催されるが、これを昨年度同様、本 WG と共催で実施する（本稿作成時点で未実施）。

3. 次年度の計画について

最後に、広報 WG 次年度の活動計画について述べる。まず、本協議会のウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理、ニュースレターの発行を引き続きおこなう。ニュースレターについては、本年度に引き続き、本協議会による活動報告のほか、会員校で実施されている FD の取り組み紹介の充実を図る。さらに、本協議会で「FD 活動報告会 2012」を次年度総会において開催するが、過去 2 回と同様、会員校間のピアレビュー活動をオンラインおよび冊子媒体で蓄積・共有するための支援をおこなう。冊子は会員校に限定して配布予定である。翌年度の報告会のための講習会も共催する予定である。

（酒井 博之）

III-7. 研究ワーキンググループ

研究ワーキンググループ（WG）は、2011 年度、関西地区 FD 連絡協議会第 4 回総会（5 月 21 日）において承認された今年度の活動方針に基づいて、主として二つの研究サブグループ（SG）を中心に活動を行った。その二つの研究 SG は、「FD メディア研究 SG」（主査校：大阪成蹊大学）、「FD デザイン研究 SG」（主査校：神戸大学）である。「授業型学生支援研究 SG」は、年度途中で主査の異動があり、やむなく休会となった。また、「授業評価研究 SG」（主査校：神戸大学）も、本年度は研究会合をもっておらず、来年度からは「FD デザイン研究 SG」の一つの課題として取り組む形で進めていくことを検討中である。なお、研究 WG、各研究 SG の活動等については、関西地区 FD 連絡協議会の各 WG の活動に関するホームページ（<http://www.kansai-fd.org/wg/>）に掲載されている。

以下では、本年度の各 SG の活動内容の概要を報告する。

1. FD メディア研究 SG

FD メディア研究 SG は、出欠確認研究 SG から名称を改めて 2 年目を迎えた。2011 年度に実施した 3 回の研究会（第 4 回は 2 月 24 日に実施予定）の他、Saai-MAS（Software as a service 型 internet Mobile Attendance Service）の下での携帯電話を利用した授業評価アンケート、出欠確認見学会などの概要を紹介する。

1-1. 第 1 回会合（通算 13 回会合）

（a）開催概要

- ・ 日 時： 2011 年 6 月 30 日（月）17:30～19:30
- ・ 場 所： 内田洋行大阪支店
- ・ 参加校・企業： 合計 11 校、3 企業、27 名

（b）議 事

1. 関西医療大学での Saai-MAS テスト導入報告

- ・ 関西医療大学より、Saai-MAS テスト導入から現在までの経過の報告があった。
- ・ テスト導入時のトラブル、本番導入時の履修登録ミスなど、Saai-MAS テスト導入体制の改善点や今後テスト導入・本格導入する大学の指針となる内容であった。

2. 京都光華女子大学の教育／学習支援システムについて

- ・ 京都光華女子大学より、京都光華女子大学の教育／学習支援システムの紹介があった。光華 navi（学内や自宅からインターネットを通じて学生一人ひとりの大学生活をサポートするさまざまな情報にアクセスできるポータルサイト）について、出欠管理からポートフォリオまでビデオを交えた報告があった。C-Learning（Communication Learning）、クリッカー、文部科学省から採択された GP、その他補助事業の報告があった。

3. 大阪商業大学における Saai-MAS の導入状況

- ・大阪商業大学より、大阪商業大学での出欠確認システム導入の経緯、導入の目的、Saai-MAS 運用のガイドライン、Saai-MAS 運用状況、出席データの FD への活用、今後の課題などの報告があった。

4. 主査校提案

分科会について、提案資料が大阪成蹊大学から配布され、設立について提案があった。特に反対はなく、2011 年度の分科会テーマを「授業アンケートの集計／グラフ化／帳票化」とし、今後メーリングリストで授業アンケートに必要な集計結果、グラフ、帳票の収集を呼び掛けることとなった。

産学連携を意識して、Saai-MAS をテスト導入もしくは本格導入する場合は、青森共同計算センター → 内田洋行 → 導入大学のルートを最優先で検討してほしい旨の提案があった。Saai-MAS の導入で最も大事なことが、使いこなす技術であり、テスト導入・本番導入を成功させるための導入技術（ノウハウ）、導入後 1 年、2 年、3 年、4 年と順次活用範囲を広め効果を引き出すための運用技術である。導入校に対してこれらを支援するのが FD メディア研究サブグループの活動であるが、FD メディア研究サブグループに属さない企業が導入校と青森共同計算センターの間に入れば、守秘義務が発生し、これら支援ができなくなるために提案された。主査校の経験では、この場合テスト導入すらできなかったため、このような提案がなされた。

5. 次回(第 14 回)会合

- ・日 時： 2011 年 9 月上旬～中旬
- ・発表校： 京都光華女子大学
- ・場 所： 京都光華女子大学

6. 次回以降会合発表校

- ・2011 年度 12 月、2 月発表を大阪樟蔭女子大学、藍野大学に検討いただくことになった。
- ・2012 年度第一回目の発表を奈良文化女子短期大学に検討いただくことになった。

1-2. 第 2 回会合（通算 14 回会合）

(a) 開催概要

- ・日 時： 2011 年 9 月 14 日（月）16:30～18:50
- ・場 所： 京都光華女子大学
- ・参加校・企業： 合計 10 校、2 企業、17 名
 - ・メンバー校：京都光華女子大学、京都文教大学、四条畷学園短期大学、関西大学、大阪商業大学、藍野大学、奈良文化女子短期大学、関西医療大学、滋賀県立大学、大阪成蹊大学
 - ・オブザーバ企業：（株）内田洋行
 - ・ゲスト企業：（株）ワークアカデミー

(b) 議事

1. 京都光華女子大学の教育／学習支援システムについて

全員で光華 navi を見学した後、京都光華女子大学から以下の発表があった。

- ・教育／学習支援システムについて

- ・出席確認システムについて
- ・出欠システムの運用について
- ・光華エンロールメントにおける出席データの活用について

2. その他事務局より

- 2.1. 分科会： 「授業アンケートの集計／グラフ化／帳票化」の分科会は、資料等の収集が進まないこともあり、今年度の開催は難しいことが報告された。
- 2.2. Saai-MAS のテスト導入： Saai-MAS をテスト導入する場合の基準を設けること、その基準は、今後参加する大学から適応することが提案された。基準についてはこれから検討する旨報告があった。

3. 次回(第 15 回)会合

- ・日 時： 2011 年 12 月上旬～中旬
- ・発表校： 藍野大学
- ・場 所： 大阪成蹊大学

1-3. 第 3 回会合(通算 15 回会合)

(a) 開催概要

- ・日 時： 2011 年 12 月 9 日（金）16:30～18:50
- ・場 所： 大阪成蹊大学相川キャンパス
- ・参加校・企業： 合計 12 校、5 企業、24 名

(b) 議事

1. 藍野大学の FD の現状

藍野大学から以下の発表があった。

- ・大学概要
- ・FD 活動の背景
- ・主な FD 活動
- ・その他の FD 活動
- ・FD 活動の今後
- ・Saai-MAS 導入について
- ・授業アンケートの現状
- ・授業アンケートの展望
- ・出欠管理の現状
- ・出欠管理の展望
- ・実習科目の現状

2. 帝塚山大学における Saai-MAS のテスト導入経緯

- ・システムリプレイス（2013 年）の検討の一環
- ・本学での出席管理状況
- ・テスト導入までの経緯
- ・学内での合意形成

- ・テスト導入実施
- ・実施概要
- ・今後の予定

また、帝塚山大学から基幹システム等大学全体の情報化と Saai-MAS の関連について発表があった。

3. その他事務局より

Saai-MAS の授業アンケート、参観報告、出欠確認、簡易アンケートなどの機能紹介があった。

Saai-MAS をテスト導入、本格導入する場合の考え方として次の提案があった。

- ・導入大学と内田洋行、青森共同計算センター、FD メディア研究サブグループが「友達関係」を構築し、お互いを支援し合うことが最もテスト導入を成功させ、結果的に導入校にとってもメリットが大きい。
- ・テスト導入は「Saai-MAS のどこが悪いのか、一つでも多く悪いところを探して導入を否定する」傾向になりがちであるが、その逆の取り組みが提案された。「Saai-MAS を導入して成功するためにはどうすればいいか、使える機能は何か、効果を引き出すためにはどうすればいいか」という考え方で臨むほうが、結果的に導入を成功に導けるという提案があった。

4. 次回（第 16 回）会合

- ・日 時： 2012 年 2 月 23 日（木）
- ・発表校： 関西大学
- ・場 所： 関西大学

5. 次々回（第 17 回）会合

- ・日 時（仮）：2012 年 5 月
- ・発表校： 奈良文化女子短期大学

1-4. 「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」見学会

前期 2 回、後期 3 回の「携帯電話での授業アンケート、出欠確認」見学会を行った。

前期は、5 月 31 日（火）12:45～14:20、6 月 7 日（火）12:45～14:20、大阪成蹊大学相川キャンパスにて実施した。5 月 31 日は 3 大学から 5 名、6 月 7 日は 3 大学、1 企業から 12 名の 7 名の参加があった。1 時間 20 分の予定が、質疑応答、実施したアンケートと出欠確認結果の画面での確認と説明等、結果的に時間が足りなくなるほどの熱心な見学会となった。

後期は、11 月 16 日（水）12:40～14:20、11 月 21 日（月）10:00～11:40、11 月 22 日（火）12:40～14:20、大阪成蹊大学相川キャンパスにて行った。11 月 16 日は 1 校から 2 名、11 月 21 日は午前に 4 校 1 組織 7 名、午後に 2 校 1 企業から 3 名の参加があった。いずれも、(1) 携帯電話システム、授業アンケート、出欠確認に関する事前説明（20 分）、(2) 授業アンケート、出欠確認の見学（20 分）、(3) 質疑応答他（30 分）、(4) 希望者のみ：見学した授業アンケート結果の閲覧（30 分）という流れで実施した。

2. FD デザイン研究 SG

2-1. 第 1 回会合

研究 WG・FD デザイン研究サブグループ（以下 SG）は、2011 年 11 月 28 日（月）午後 4 時 30 分～6 時 30 分、京都大学吉田南 1 号館共 106 室において、本年度の第 1 回会合を、公開研究会として実施した。公開研究会の話題提供は、FD デザイン研究 SG メンバーの滋賀県立大学倉茂好匡教授に『滋賀県立大学方式の「授業の基本」研修会と授業コンサルテーション』と題してお願いした。

倉茂先生は、滋賀県立大学において、ワークショップ「授業の基本」を実施してきており、また、平行して、教育実践支援室を通して、希望する教員には、授業コンサルテーションも行っている。それらの取り組みを総合して、滋賀県立大学の FD 活動は進めており、それらの取り組みの概要を紹介していただき、FD をデザインするという視点から、FD のあり方について議論する場として今回の研究会が企画された。「授業の基本」は、既に、関西 FD の FD 共同実施 WG を通じて、他大学の方にも開放されており、実際にそのワークショップに参加された方も含めて、12 大学 16 名の参加があった。

まず、FD デザイン研究 SG の主査がサブグループの趣旨と今回の第 1 回会合の進め方を説明した。

その後、倉茂先生から、「授業の基本」のワークショップの一部を実演も交えて紹介していただき、また、コンサルテーションの実際についても具体的な事例を紹介いただいた。倉茂先生の話提供は、味噌汁の作り方などの具体例を取り上げたり、また、問かけなどによる双方向のやりとりも交えたり、ふだんのワークショップの雰囲気を感じながら、時間を感じさせない興味深いものであった。話題提供終了後、FD のあり方についても熱心な質疑応答が行われた。

その後、京都大学高等教育研究開発推進センターで企画している「FD 実態調査」について、京都大学の太塚雄作教授より説明があり、質問項目やアンケート対象、調査方法などについて、メーリングリストで SG のメンバーから意見を求めることになった。調査は 2 月頃に実施する予定である。

予定時間をオーバーした終了となったが、その後も、参加者同士の情報交換が行われるなど、大学を超えた教職員の交流の場として、関西 FD の特長が感じられる有意義な会合となった。

3. 授業評価研究 SG

授業評価研究 SG は、今年度は研究打合せなどを行う機会を逸したが、昨年度末の 2011 年 3 月 16 日（水）に開催された「授業評価ワークショップⅠー授業評価の効率的実施と効果的活用ー（関西地区 FD 研究 WG 主催・京都大学高等教育研究開発推進センター共催）」の概要について、昨年度の叢書では報告できていないので、以下に報告しておく。

2011 年 3 月 16 日（水）13:00～18:00 に、関西地区 FD 連絡協議会・研究 WG・授業評価研究 SG、京都大学高等教育研究開発推進センターの共催で、京都大学吉田南総合館において、「授業評価ワークショップⅠー授業評価の効率的活用と効果的活用」と題したワークショップが開催された。

まず、松本和一郎教授（龍谷大学）による開会の挨拶に続き、2 つのミニレクチャーが行わ

れた。ミニレクチャー1では、米谷淳教授（神戸大学）より、授業評価の最近の動向に関する講演が行われた。講演においては、P・セルディンの“Changing Practices Evaluating Teaching”を引き、学生による授業評価は本来「評価」ではなく、「フィードバック」であることが紹介された。学生からのフィードバックを授業改善にどのように生かせるかが大切であり、教員側に改善策に関する知識とモチベーションがあること、学生の教育への関与度が重要であることが述べられた。ミニレクチャー2では、福永栄一教授（大阪成蹊大学）から授業評価におけるメディア活用に関する講演が行われた。メディア活用で成果を上げるためには、ただシステムだけを導入すればよいのではなく、導入方法や活用法も同時に伝える必要があることや長期的スパンで考える重要性（例えば、検討・準備段階の重要性、関心の高い教員による試行的な実施など）が述べられた。

その後、事前アンケートを基にテーマごとに分れてグループワークが行われた。グループは、「授業評価の実施・利用メディアに関する分科会」（1グループ）、「授業評価の分析・結果等に関する分科会」（1グループ）、「授業評価の活用に関する分科会」（4グループ）の計6グループであった。グループワークの前半では、各大学の授業評価の現状、授業評価に関する疑問点が出され、その疑問点の質疑応答を含む中間質疑をはさんで、後半のグループワークが行われ、前半で出された課題や中間質疑を踏まえ、それらに対する解決策やより詳細な情報交換がなされた。最後の全体会では、各グループからグループワークの報告が行われ、さらに、授業評価の実施や活用、課題について活発な議論が行われた。

3月11日に起こった東日本大震災・原発事故の影響がまだ大きく及ぶなか、関東地域から参加を予定していた数名の欠席があったが、9割強の37名の参加が確保できた。事後アンケートの全般的参加満足度の評定平均値は、4.50（5段階評定・約53%が5の評定）と十分高い値であり、自由記述や各セッションの評定などから、中間質疑の位置づけや議論の際の論点の明確化などの点で課題も残されたが、参加者にとって有意義な情報交換・情報共有の場となった。

なお、当日のグループワークで、参加者が持参した授業評価アンケートについて、関西FDのホームページへの資料公開の許可を得ることができたものは、PDFファイル化して、「授業アンケート事例集」として公開しているので、以下のURLを参照されたい。

<http://www.kansai-fd.org/publications/resource/20110316.html>

（大塚 雄作、高橋 雄介）

III-8. 主催・共催・協賛イベント一覧

年月日	イベント概要
2011.4.23 【共催】	関西学院大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 講演会「大学の FD をめぐる諸問題」 テーマ 1:「大学における授業改善の方策：良い授業を実現するための FD」 講師：宮本健市郎 教育学部教授 テーマ 2:「大学の FD をめぐる諸問題」 講師：久保田哲夫 高等教育推進センター長 於：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス第 4 別館 2 階 202 教室
4.29 【共催】	滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 2011 年度「授業の基本」ワークショップ 「授業の基本と授業づくり」 授業の基本①－基本の基本－ 授業の基本②－授業展開上の罫－ 授業づくりワークショップ 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：滋賀県立大学
8.1 【協賛】	京都大学高等教育研究開発推進センター／大学総合教育研究センター／財団法人電通育英会主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 大学生研究フォーラム 2011 講演：「大学受験の今日的、社会的意義－大学に何を求めるか」 講演者：和田 秀樹（国際医療福祉大学大学院 教授、精神科医） シンポジウム ファシリテーター：中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター 准教授） 報告 1:「育てる教育力学と支援する教育力学の相補的關係」 報告者：溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授） 報告 2:「大卒者の初期キャリアと大学の学びを媒介するもの」 報告者：下村 英雄（独立行政法人労働政策研究・研修機構 副主任研究員） コメント 豊田 義博（リクルートワークス研究所主任研究員） 浦坂 純子（同志社大学社会学部教授） 鳥居 朋子（立命館大学教育開発推進機関教授） 梶原 昭博（北九州市立大学 国際環境工学部 教授/学部長） 参加者ダイアログ パネルディスカッション 小括：「大学生調査と教育実践との関係」を振り返る 中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター 准教授） 総括パネルディスカッション 吉見 俊哉（東京大学大学総合教育研究センター長） 川崎 友嗣（関西大学社会学部 教授 キャリアデザイン担当主事）

	松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授） 司会：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授） 於：京都大学百周年時計台記念館 1 階・大ホール、2 階・国際交流ホール
8.4 【共催】	京都大学 FD 研究検討委員会主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「若手のための教育実践講座」 セッション1 全体討論1 「教える側からみた大学授業（自己紹介）」 セッション2 ランチと自由討論 セッション3 模擬公開授業・検討会 セッション4 グループ・全体討論1 於：京都大学百周年時計台記念館2階・国際交流ホール
8.8-10 【共催】	関西学院大学高等教育推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「大学教員のための『講義方法基礎の基礎』」 8月8日（月） 講義「授業の基本①ー基本の基本」 ワークショップ「授業の基本技術を身につけよう」 8月9日（火） 講義「授業の基本②ー学生の興味をひきつけよう」 ワークショップ「教材研究」 講義「授業の基本③ー視聴覚教材の効果的利用法」 8月10日（水） 講義「授業の基本④ー発問と宿題」 グループワーク「授業の完成」 授業発表会 於：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスG号館326教室
9.9 【共催】	大阪工業大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本ワークショップ」 授業の基本①ー基本の基本ー 授業の基本②ー授業展開上で陥りやすい罠ー 教材研究ワークショップーグループワークとミニツツレクチャー実技ー 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：大阪工業大学 大宮キャンパス
9.13, 16 【共催】	大阪大学教育・情報室主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「平成 23 年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修」 9月13日（火） 講話：「大学教育の転換」 講師：金子元久（国立大学財務・経営センター研究部長・教授） 研修：「個人情報保護」 担当：評価課 研修 【研修 A】 「大阪大学における TA 制度の現状とあり方」

	講師：工学研究科教授 藤田喜久雄 「短期・超短期留学プログラムの推進」 講師：国際教育交流センター教授 近藤佐知彦 【研修 B】 「共通教育賞受賞者による模擬授業「魅力的な授業づくりのポイント」」 講師：理学研究科教授 升方久夫 「共通教育賞特別賞受賞者による模擬授業「ICT 支援アクティブラーニングの一例」」 講師：大学教育実践センター教授 岩居弘樹 【研修 C】 「社会人院生の集め方、育て方、送り出し方」 講師：国際公共政策研究科教授 山内直人 於：大阪大学豊中キャンパス豊中総合学館 9 月 16 日（金） 講話：「大阪大学の教育の更なる改善のために」 講師：荻上紘一（大学評価・学位授与機構評価研究部・教授） 研修：「個人情報保護」 担当：評価課 研修 【研修 A】 「大阪大学における TA 制度の現状とあり方」 講師：工学研究科教授 藤田喜久雄 「英語による授業の質保証」 講師：人間科学研究科准教授 山本ベバリー・アン 【研修 B】 「共通教育賞受賞者による模擬授業「魅力的な授業づくりのポイント」」 講師：工学研究科准教授 松村浩由 「共通教育賞受賞者による模擬授業「魅力的な授業づくりのポイント」」 講師：人間科学研究科准教授 吉川 徹 【研修 C】 「社会人を対象とした、あるいは、社会人と学生のまじった教育プログラムの役割と具体的方法」 講師：コミュニケーションデザイン・センター特任講師 蓮 行、 准教授 本間直樹 於：大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター
9.29 【協賛】	大阪市立大学 大学教育研究センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 大阪市立大学全学 FD 事業第 18 回教育改革シンポジウム 「研究大学における教育・学習環境の構築筑波大学の事例に見る学部教育と大学院教育のシナジー」 講演「教養教育改革と大学院キャリア教育の連携—TA と作る授業」 講師：宮本 陽一郎氏（筑波大学 教授） コメンテーター： 玉井 金五氏（大阪市立大学 経済学研究科教授） 於：大阪市立大学 杉本キャンパス 学術情報総合センター10 階会議室

11.12 【共催】	立命館大学教育開発推進機構主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「立命館大学ワークショップ」 ワークショップ 1「心理学演習 IIー受容的に聴く力（イヌ・バラ法）」 ワークショップ 2「心理学演習 IIIーアサーション・トレーニング」 於：立命館大学びわこ・くさつキャンパス
12.10 【共催】	大阪樟蔭女子大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 ワークショップ「どうする、どうやる成績評価」 事例報告 「全学共通初年次教育科目「アカデミック・スキルズ」における成績評価」 有田 節子（大阪樟蔭女子大学教育開発機構長） ミニレクチャー 「成績評価の方法と課題～京都 FD 開発推進センター（大学コンソーシアム 京都）『まんが FD ハンドブック【成績評価編】』作成を通じて～」 講師：高橋 伸一（京都精華大学人文学部教授・共通教育センター長） グループワーク 「成績評価について考える」 ファシリテータ：半澤 礼之（京都大学高等教育研究開発推進センター助教） 於：大阪樟蔭女子大学
12.17 【主催】	関西地区 FD 連絡協議会主催 ワークショップ「思考し表現する学生を育てるⅣーライティング指導の方法ー」 講演『『モジュール』に基づいたレポート、小論文の作成技法について』 講師：小田中 章浩（大阪市立大学文学研究科 教授） 事例紹介「立命館大学における初年次日本語リテラシー科目の取組」 講師：薄井 道正 氏（立命館守山中学校・高等学校 教諭 ／立命館大学 非常勤講師） グループワーク テーマ1：論文指導「十字モデルで協同的に論文を考える」 牧野 由香里（関西大学総合情報学部 教授） テーマ2：作文法「科学的作文法入門」 倉茂 好匡（滋賀県立大学環境科学部 教授） テーマ3：コピペ対策「阪南大学コピペ検索システム」 花川 典子氏（阪南大学経営情報学部 教授） 全体討論 司会：安岡高志（立命館大学教育開発推進機構 教授） 於：立命館大学以学館
12.21 【協賛】	龍谷大学大学教育開発センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 第7回龍谷大学 FD フォーラム 2011 第1部 基調講演 「学びの空間が大学を変える」 山内 祐平 氏 東京大学大学院情報学環准教授 第2部 事例報告 事例報告 1

	「大学に求められる『場』とは～学生達の意識の変化から～」 土山 惣一郎 氏 株式会社類設計室取締役・大阪設計室長 事例報告 2 「学生の学修支援環境について」 村岡 倫 龍谷大学学生部長、文学部教授 第3部 パネルディスカッション 山内 祐平 東京大学大学院情報学環准教授 土山 惣一郎 株式会社類設計室取締役・大阪設計室長 村岡 倫 龍谷大学学生部長、文学部教授 コーディネーター 長谷川 岳史 龍谷大学大学教育開発センター長、経営学部准教授 於：龍谷大学深草学舎
2012.1.28 【協賛】	関西大学教育開発支援センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 第6回 FD フォーラム（三者協働型アクティブ・ラーニングの展開 最終成果報告会） 第1部 『三者協働型アクティブ・ラーニングの展開—その成果—』 第2部 『識者・先駆者に聴く』 「学生と授業を楽しむコツ」 橋本 勝（富山大学） 「初年次教育とアクティブ・ラーニング」 山田 礼子（同志社大学） 「この一年のアクティブ・ラーニングへの取り組み・展開を振り返って」 溝上 慎一（京都大学） 第3部 『識者・先駆者に訊く』 本 GP の総括と展望について パネルディスカッション「アクティブ・ラーニング入門一歩前」 閉会挨拶（田中俊也 教育開発支援センター長） 於：関西大学千里山キャンパス第1学舎5号館4階 E403 教室
2.12 【共催】	京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会共催 第83回公開研究会 『大学教育におけるコースポートフォリオの活用 —授業改善からカリキュラム改善へ—』 基調講演 ダニエル・バーンスタイン（カンザス大学、ISSOTL 次期会長） 「ティーチングにおける知的活動の表象：教授・学習を可視化する」 事例報告&ディスカッション ＜事例報告＞ 「各報告の位置づけについて」 酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター 特定准教授） 「藍野大学におけるコースポートフォリオの実践報告」 平山 明子（藍野大学医療保健学部 准教授） 「大阪府立大学高専におけるコースポートフォリオ活用」

	土井 智晴（大阪府立大学工業高等専門学校総合システム学科准教授） 「カリキュラム・マップを活用した組織的カリキュラム改善」 小川 勤（山口大学大学教育センター 教授） ＜コメント＞ ティーチングポートフォリオの視点から 栗田 佳代子（大学評価・学位授与機構 准教授） SOTL の視点から ダニエル・バーンスタイン ICT 利用の視点から 飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授） 閉会挨拶 大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授） 於：京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール
2.16 【協賛】	追手門学院大学 学習支援・教育開発センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 追手門学院大学 学習支援・教育開発センター講演会 「授業でのドラマ的手法の活用について－大学における実践報告－」 講師：武田 富美子（立命館大学生命科学部 准教授） 於：追手門大学
3.2 【共催】	京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会共催 MOST 講習会 趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明 酒井博之（京都大学高等教育研究開発推進センター特定准教授） MOST 操作説明 参加者によるスナップショットの作成 於：京都大学吉田南 1 号館
3.15, 16 【協賛】	京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 第 18 回大学教育研究フォーラム 開会の挨拶：松本紘（京都大学総長） 基調講演：「相互研修型 FD の総括」 田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター長・教授） パネルディスカッション パネリスト 山田 剛史（教育・学生支援機構 教育企画室・准教授） 夏目 達也（名古屋大学高等教育研究センター 教授） 高橋 哲也（大阪府立大学総合教育研究機構 教授） 飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授） 樋口 聡（文部科学省高等教育局大学推進課大学改革推進室長） 大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授） 司会：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授） 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授） その他、個人研究発表、小講演、ラウンドテーブル企画 於：京都大学 百周年時計台記念館・吉田南 1 号館・吉田南総合館

（笹尾 真剛）

